

RMR オリジナルボイスドラマ

「超鬼兵ガルヴアイド エデン・ダイバー」脚本：菅谷陽星 ver. 20111002 収録用決定稿
○キャッチコピー 3パターン

N 「超鬼兵《ちようきへい》ガルヴアイド エデン・ダイバー。その伝承《でんし
よう》を受け継ぐのは誰か」

N 「超鬼兵ガルヴアイド エデン・ダイバー。いま、伝説《でんせつ》が真実《し
んじつ》になる」

ミナミ 「いくよ！ ロボットさん！」

○タイトルコール

ミナミ 「ガルヴアイド エデン・ダイバー！」

キタヤマ 「ガルヴアイド エデン・ダイバー！」

ニシジマ 「ガルヴアイド エデン・ダイバー！」

ジュリー 「ガルヴアイド エデン・ダイバー！」

コヅカ 「ガルヴアイド エデン・ダイバー！」

ロイス 「ガルヴアイド エデン・ダイバー！」

先・マナカ 「ガルヴアイド エデン・ダイバー！」

全員 「ガルヴアイド エデン・ダイバー！」

○メモ・都合によりマナカを先に収録します

21 単独収録シーン1、3′ 37′ 40′ 45′ 67′ 71′ 72′ 73′ 74′ 75′ 76′ 78′ 79′ 80′ 82′
22 83′ 84′ 86′ 88′

24 掛け合を含むシーン32′ 39′ 43′ 55′ 58′ 60′ 93

○CM用

ソラ 「ほら、ミナミもみなさいよ！」

ミナミ 「お姉ちゃん、夕べから寝ないで観てたの？」

ソラ 「それが未来ある女子高生の態度か？ これを観ずして何を観る！」

31 先・マナカ「世界中を襲った大惨事から一三年。未だ復興の渦中ではありますが、日本は
32 再び大きくはばたこうとしています。太陽系の外へ旅立つことが決定して十年。我が
33 国の科学技術の粋を結集した調査船・不死鳥が、今、ここ種子島《たねがしま》宇宙
34 センターから発射されるまで、あと一時間半」

35 N 「アドレマイズの混沌《こんとん》が、人類の歴史に爪痕《つめあと》を残した
36 惨事から、すでに十数年が経過した。しかし、我々は新たな驚異に怯《おび》えなけ
37 ればならなかったのだ。果たして救世主《きゆうせいしゅ》はどこにいるのか。それ
38 は誰にも答えることができなかった…」

39 ミナミ 「え？ わたしが、ロボットのパイロット！ そんなの絶対に無理です！」

40 キタヤマ 「大丈夫、オレがついてる」

41 ミナミ 「キタヤマさんなんか嫌いですッ」

42 ニシジマ 「たしかに心配ではある。男女関係的な意味で（笑）」

43 ジュリー 「ニシジマ博士の言うとおりです」

44 キタヤマ 「ジュリエット本部長までそんなこと」

45 コヅカ 「いいか。これは国家のいや世界の危機なのだ。もっと真剣にやらんか」

46 ミナミ 「わたし。コヅカ大臣って、苦手です」

47 ロイス 「わたしもだ」

48 ロイス以外「あたは全員から嫌われてますけどね！」

49 N 「RMR《あーる・えむ・あーる》がお送りするオリジナルSFロボットアクション

50 ヨン・ボイスドラマ『超鬼兵《ちようきへい》ガルヴアイド エデンダイバー』第

51 一話「巨人再来《きよじんさいらい》、にこ期待ください」

○アイキャッチ

54 glitter | | = 12秒

56 ○シーン1 アバンタイトル

57 東京都・台東区鶯谷《うぐいすだに》。ホテルの一室、早朝5時30分
58 種子島宇宙センターのJAXA広報担当者がマナカのインタビューに答えている様子が中継
59 されている
60

61 JAXAの人（ ）「これが、今回塔載された姿勢制御システムの概略です。つくばをはじ
62 め多くの技術者の結晶とでもいいましようか」
63 先・マナカ「ありがとうございます」
64

65 マナカ、カメラに向き直り、
66

67 先・マナカ「世界中を襲った大惨事から一三年。未だ復興の渦中ではありますが、日本は
68 再び大きくはばたこうとしています。太陽系の外へ旅立つことが決定して十年。我が
69 国の科学技術の粋を結集した調査船・不死鳥が、今、ここ種子島《たねがしま》宇宙
70 センターから発射されるまで、あと一時間半。ここで一旦スタジオにお返しします」
71

72 真つ白なシートが敷かれたベッドの頭に備え付けのラジオから聴こえる放送
73 キタヤマの意識は半分はラジオ。半分は目の前の美人女子大生のほろ酔いの瞳にある
74

75 (別) 女子大生「ラジオ消して…」
76 キタヤマ「あ、ああ」

77 (別) 女子大生「いいよ」
78 キタヤマ「今日あったばかりなの？」

79 (別) 女子大生「それ以上、言わせないで」
80 キタヤマ「じゃ、遠慮なく…」

81
82 キタヤマの携帯の呼び出しアラームが鳴る。分室からの緊急コールサイン
83

84 キタヤマ「な！ マジかよ…」
85 (別) 女子大生「出ないで」

86 キタヤマ「ごめん。用事できた」
87

88 キタヤマ、急いでベルトを締めてズボンをはく
89 憤慨する女子大生
90

91 (別) 女子大生「ちょっとお！」
92 キタヤマ「宿代はこれで払えるから」

93
94 キタヤマはカードを女子大生に投げつける
95

96 (別) 女子大生「なによ、それ！」
97

98 ドアから廊下に走り出るキタヤマ、携帯を肩ではさみながら
99

100 キタヤマ「キタヤマです。すぐ向かいますんで」
101 キタヤマ「まったくッ」

102 (別) 女子大生「カードだけ渡して置いてけぼり？ って、名刺！ キヤッシュカードじ
103 やないじゃん！ 何コレ？ こっかあんぜんほしういいんかい、とくべつぶんしつ、
104 しゅにん？」
105

106 ○シーン2 オープニング
107

108 N 「アドレマイズの混沌《こんとん》が、人類の歴史に爪痕《つめあと》を残した
109 惨事から、すでに十数年が経過した。しかし、我々は新たな驚異に怯《おび》えなけ
110 ればならなかったのだ。果たして救世主《きゅうせいしゅ》はどこにいるのか。それ
111 は誰にも答えることができなかった…」
112

主題歌、ワンコーラス 1分30秒

アイキヤッチ

N 「エピソード・ワン 巨人再来《きょじん さいらい》」

○シーン3 ミナミのアパート。朝6時

さいたま市。にぎわい出すよそおいの街並み。蟬が鳴くマンションが立ち並ぶ一角

その中にある三階建てのちよつと古いアパート

ソラが興奮して叫んでいるのが外まで聴こえる

ソラ 「おおお！ すげー！ 発射台のドアップなんて映しちゃっていいのか！」

ソラ、居間でテレビにかじりついている

先・マナカ「ただいま朝六時をまわりました。打ち上げまであと三十分。天候はご覧のと

おり雲一つない晴天。不死鳥が飛び立つ姿を想像すると心躍ります」

ソラ 「ほら！ ミナミも観なさいよ！」

便器に水が流れる音がすると、ミナミがトイレから眠そうに出てくる

ミナミ 「タベから寝ないで観てたの？」

ソラ 「何いってんのよ。我らの不死鳥が打ち上げだつてのに悠長《ゆうちょう》に寝

ていられるあんたの方がどうかしてるのよ」

ミナミ 「いつもは睡眠、睡眠とかいつてるくせに」

ソラ 「あたしの美貌は一晚くらい寝なくなつて、まったく問題ないのよ」

ミナミ 「今日は大事な模試《もし》だつて言つたでしょ。あたしにはそっちの方が全然

大事なの」

ソラ 「それが未来ある女子高生の台詞か？ あうなんて夢のない妹をもつたのだろう。

父さんと母さんになんて報告したらいいものか、姉は真剣に悩むのだった」

ミナミ 「その演劇かぶれな感じ、やめて欲しいわ」

ソラ 「かぶれとは何よ。劇団マーシャラの看板女優をなめてもらつちや困るわね！」

ミナミ 「自分で看板とかいうかね。しかも、元だし」

ソラ 「あらゴメンなさい。どこかのミナミさんみたいにナンの取り柄もない補欠の、

ただの眼鏡っ娘とは違うなんて、口が裂けても言えないわね」

ミナミ 「部活のことには口出ししないで。わたしだつて一生懸命やってるんだから」

ソラ 「こないだは晴れ着まで買つてあげたつてのに、一本も刺さらないんじゃない必要な

かったわね」

ミナミ 「いちいち人を傷つけるスキルには感服するわ」

ソラ 「あたしだったら上手くなるまで寝るときも袴《はかま》はいて寝るわね」

ミナミ 「弓道やったことない人に、あの難しさはわかんないのよ」

先・マナカ「ただいま入った情報によりますと、不死鳥の発射カタパルト部分に異常が発

見されたとのこと。確認のため発射を順延《じゅんえん》するとの連絡が入りました」

ソラ 「おおお、なんたるチア！ がんばれジャクサ！」

ミナミ 「とりあえず…パン焼くわ…」

○シーン4 立川基地・指令室 朝6時43分

壁一面のスクリーンに様々な情報が表示されている

リアルタイムで変化する各種データ

指令室は緊急事態でざわついている

スクリーンを観る観客席のように並んだオペレータ用コンソールデスク

オペC 「小笠原《おがさわら》ホール。半径二十キロ圏内に重力場《じゅうりよくば》

の異常を感知。急速に拡大中！」

オペD 「マルロクヨンサン。ダイバー到着」

コヅカ 「気象庁から解析の報告はまだこんのか！」

オペB 「あと十分待つて欲しいと言ってます」

自動ドアが開き、急いでいる風に入ってくるキタヤマ
節電のため空調温度が高い指令室で怒鳴っているコヅカ

キタヤマ「うわッ、毎度の蒸し暑さ」

コヅカ「だからあれほど予算をこちらに回せと言ったのだ」

キタヤマ「すみませ〜ん。なかなかタクシー、捉《つか》まらなくて」

ジュリー「セカンドフェーズだというのに、何をしていたのですか？」

コヅカ「ジュリエット本部長の言うとおり。だいたいこの時間なら、鶯谷《うぐいすだに》でタクシーなんぞ、まだいくらでも走つとるだろ」

ニシジマ「コヅカ大臣《だいじん》。そう野暮《やば》なこといいなさんな。キタヤマくんの血気盛んなところは察してあげないと。イヒヒ」

キタヤマ「さすがニシジマ博士《はかせ》！」

ジュリー「ともかく、ホールの直径が徐々に大きくなっています。エデンのスタンバイを要請いたします」

ここぞとばかりに咳払いをするコヅカ

コヅカ「エデンの運用は既に国連から我が国の防衛省に移管されているのでありますからして、その判断は、こちらでさせていただきます」

ジュリー「し、失礼しました」

コヅカ「ホールの時空振動率《じくうしんどりつ》が七十パーセントを超えた。これよりフェーズ・ワンに移行《いこう》する。再び巨人《きょじん》が出てくる可能性も想定し、エデンの出勤を申請する」

オペA「了解。エデン、発進承認コード送信」

コヅカ「種子島の総理には緊急で帰京するようにお伝えしろ。報道管制も施行《しこう》。NHKの衛星回線は《こちらに委譲《いじょう》させるように。マニユアルどおり行けよ！ それから不死鳥の打ち上げ中止を文科省《もんかしょう》に打診しておけ。判断は向こうに任せる」

コヅカの偉そうな振る舞いを見ながら、キタヤマはニシジマに耳打ちする

キタヤマ「で、状況はどんなです？」

ニシジマ「資料はモバイルに送ったのに、見てないのか？」

キタヤマ「巨人とやりあうのはオレなんすよ。フロリダでは肩すかしで済んだものの、ルソン島《とう》ではコテンパンだったじゃないですか。今度はホントに大丈夫なんですか、ってことですよ」

ニシジマ「あれから三年も経ったんだ。機能は充分強化してある」

オペB「内閣総理大臣の承認信号確認」

オペA「エデン、スタンバイ。ダイバーは搭乗せよ」

キタヤマ「充分って、巨人の正体もわかってないクセに」

ニシジマ「ルーフェイズ・フィルターの威力をバカにするな」

コヅカ「おい、キタヤマ主任。早くドッグに向かわんか」

キタヤマ「はいはい。（ニシジマだけに）オレはあのロイスって人、信用できないんすよ」

指令室から出ていくキタヤマ。それを見送るニシジマ、独り言のように

ニシジマ「それは、そうだが…」

ジュリー「わたくしは、ロイスにこのことを知らせてきます」

コヅカ「お願いします。わたしは、どうもあの手の人間が苦手ですね」

ニシジマ「ボクも行きましょうか？」

ジュリー「いえ。これはわたくしの仕事ですから。では、あとの指揮《しき》、頼みます」
ニシジマ「お疲れ様です…」

コヅカ、ジュリーへの挨拶もほどほどにオペたちにゲキをとばす

225 コヅカ 「エデンのシステムチェック、怠《おこた》るなよ！」

226 指令室から廊下に出たジュリエット。呼吸を整えて

227

228

229 ジュリー 「好《この》んで会《あ》いたい人《ひと》など、いるものですか…」

230

231 ○シーン5 ミナミのアパート。朝6時50分

232 玄関で靴を履くミナミ。ソラは居間でテレビにかじりついたまま

233

234 ミナミ 「夕飯《ゆうはん》には戻れると思うけど、一応、マルヤでお惣菜《そうざい》

235 買ったいて」

236 ソラ 「おう、まかしとけ！」

237 ミナミ 「じゃ、行ってくる」

238 ソラ 「健闘を祈る！」

239 ミナミ 「ほんと心のない人だよ…」

240

241 ○シーン6 埼京線 大宮駅 朝7時

242 いつも以上に混雑しているホームに上がってくるミナミ

243

244 ミナミ 「凄人。なんかあったのかな？」

245 (別) JR大宮駅員 「今朝六時半ごろ、当駅と北与野《きたよの》駅の区間内にて緊急停

246 止信号が確認されたため、上《のぼ》り電車の運行を見合わせておりましたが、安全

247 の確認がとれましたので、間もなく発車いたします。ご利用の方は、ご乗車になつて

248 お待ちください」

249 ミナミ 「ご乗車つて、これはちよつと決死《けっし》の覚悟《かくご》が必要だわ…」

250

251 ラッシュの電車にねじりこむように乗り込むミナミ

252

253 ミナミ 「ス、スミマセン…乗り、ます…」

254

255 発車する埼京線、上り

256

257 ○シーン7 ロイスの隔離房 朝7時

258 適温だがロイスの要望で湿度が高く照明も暗い隔離房。金属の壁は声を反響させる

259 6畳間のフローリングにはベッドと洗面所、トイレがあるだけで殺風景な作り

260 ロイスはベッドの上であぐらをかきながら、ほくそえんでいる

261 彼の体臭を不快に思いつつも、凜と立つ任務に忠実なジュリエット

262

263 ジュリー 「状況はどのような具合です。なにかご意見はありますか？」

264 ロイス 「フフ。間違いなくノエディーが来るね」

265 ジュリー 「ノエディー？ ノエディーとは何です？」

266 ロイス 「おつとスマン。君たちの間《あいだ》では巨人《きょじん》と呼んでいるんだ

267 ったな」

268 ジュリー 「ノエディー…巨人の出現をどうして知ることができるのです？」

269 ロイス 「フフ。それはまだ言えないね」

270 ジュリー 「あなたの要望は出来る限り叶えているつもりです。この世界でホールと巨人

271 の情報を知っているのは、あなただけなのです。被害を最小限に抑え込むために」

272 ロイス 「なら、この前出てきたアイスクリームというものをくれ」

273 ジュリー 「！ アイスクリーム？」

274 ロイス 「あれは冷たくて美味《うま》い。アドレマイズにはない味《あじ》だ」

275 ジュリー 「すぐ用意させます」

276 ロイス 「冗談だよ。あんた、本当に真面目だね」

277 ジュリー 「じょう、だん…？」

278 ロイス 「そんなんじゃ、男にモテないだろうな。しかも酒臭い。ブランデーというやつ

279 だな」

280 ジュリー 「そんなに飲んでは…」

281 ロイス 「ノエディーが出現するとき、デモンコアが光るのさ。そしてそれは、わたしも
282 感ずる」
283 ジュリー 「あのクリスタルが反応するのでしょうか？」
284 ロイス 「デモンコアはノエディーの探知機だと言ってもいい。他にも様々な機能がある
285 が、まあ、それは今、説明する必要はないだろう」
286

287 壁の受話器をとり、指紋認証ボタンを押すジュリー

288
289 オペB 「はい。指令室」

290 ジュリー 「ランドバークです。デモンコアの反応に変わりはありませんか？」

291 オペB 「今、確認します」

292 ロイス 「無駄だよ。君たちのテクノロジーでは感知できん」

293 オペB 「…特にデータに変化はありませんが」

294 ジュリー 「ミスターコヅカに映像でチェックするよう伝えてください」

295 ロイス 「気を付けろよ。カメラの素子《そし》が焼けてしまうかもしれないぞ」

296 ジュリー 「そんなことまで…あなたはどこまでご存知《ぞんじ》なのですか？」

297 ロイス 「フフ。少なくとも君たちより詳しいことは、既に証明済みだと思うがね。わた
298 しは、ロイス・バイットン・トイスヴェル・ベア・ルジュールだよ」
299

300 ○シーン8 初エデン発進シークエンス 7時10分

301 エデンの初発進で緊張が走る指令室。コンソールパネルから聴こえる様々な電子音

302 エデン胸部の操縦席にキタヤマの座るシートが奥からスライドして定位置で止まり

303 背面ハッチが上下から閉じられると、足元から液体が水嵩を増してくる

304 液体が充填されるとシートは半固定となり液体に浮いている状態になる

305 メカのコントロールはプレステのパッドのようなもので行う

306
307 オペA 「エデン、収納容器《しゅうのうようき》、減圧《げんあつ》開始」

308 オペB 「拘束《こうそく》用アンカーボルト、ロック解除」

309 オペD 「ダイバーとのシンクロシステム起動」

310 キタヤマ 「シンクロシステム、起動。ダイバーはキタヤマ・リョウで行きます」

311 オペA 「声紋照合《せいもんしょうごう》およびバイタルサイン確認」

312 オペD 「コックピット内へのRFL《あーる・えふ・える》充填《じゅうてん》完了」
313

314 エデンの操縦室に液体呼吸用の液体が注入される

315

316 キタヤマ「潜《もぐ》るのは好きじゃないけど…この浮いてる感じは安心しちゃうから不
317 思議だね」

318 オペC 「大臣、デモンコアに発光現象が起きています」

319 コヅカ 「なんだと？ あの男の仕業か？」

320 オペB 「ロイスによると、巨人が出現するサインだということです」

321 コヅカ 「今まで隠していたわけか。いけ好かないヤツだ。聞いたかキタヤマ主任」

322 キタヤマ 「感動して涙が出そうですよ」

323 オペA 「ルーフケイズ・ドライブ、接続。エンジン出力上昇。アイドリングからミドル
324 レンジで固定」

325 キタヤマ「ルーフケイズ・フィルター、展開」

326

327 エデンの全身を、頭からつま先に向けて薄いエネルギーの膜が覆う

328

329 オペD 「フィルター確認。最大効果定数《さいだいこうかていすう》、四五〇ルースト」

330 コヅカ 「よし。エデン、リフトアップ」

331

332 エレベータが上昇し、発進ゲートに向かうエデン

333

334 キタヤマ「巨人と戦うたって、シュミレーションがあてになるとも思えないけどね…な
335 んで、巨人がでたら速攻で逃げますんで」

336 コヅカ 「国連から運用権を譲り受けるために、どれだけ苦労したのか教えただろうが。」

337 この日のためのエデンだ。恥をかかすなよ
 338 キタヤマ「わかってますって」
 339 ニシジマ「ホールの状態がルソン島のとくに酷似《こくじ》している。確率は高いぞ」
 340 キタヤマ「税金からもらった給料分は働きますよ」
 341 オペA「ルーフケイズ・エンジン。リアクター、正常値。バックアップ対応用静止軌道
 342 衛星とのリンク、一番から十番。回線接続を確認。全システム良好」
 343 オペB「昭和記念公園内の民間人、ゼロを確認」
 344 コヅカ「ゲート、開け」
 345
 346 昭和記念公園の一角にあるゲートが開く
 347
 348 キタヤマ「エデン。発進します！」
 349
 350 エデン、テイクオフ！
 351
 352 オペD「ルーフケイズ・フローター、安定領域。小笠原ホールへの到達予想時間、マル
 353 ハチマルゴ」
 354 コヅカ「しかし、早朝にあの光は目立ち過ぎだな。極秘行動なのに誤魔化しようがない
 355 …」
 356 ニシジマ「三〇メートルの機体を隠そうと思う方がどうかしてるとは思いますがね。しか
 357 もあんなキヤノン砲とシールドを抱えて」
 358
 359 ○シーン9 りんかい線車内 8時04分
 360 ミナミの乗ったりんかい線が天王洲アイル駅を通過する
 361 ミナミは教科書に記載された北欧神話の詩集・古エッダ中の【巫女の予言】の一説を読
 362 んでいる
 363
 364 ミナミ「わたしはおぼえている。太古に生まれ、その昔わたしを育ててくれた巨人のこ
 365 とを。九つの世界。九つの根を地下にはりめぐらした、あの宇宙樹《うちゅうじゅ》
 366 を、わたしはおぼえている——これはユグドラシルのことね」
 367 車内アナ「まもなく天王洲アイル。天王洲アイルです。東京リニア羽田空港線、大江戸ラ
 368 イナーをご利用の方はお乗り換えです」
 369 ミナミ「あれ？ もうそんなに来たんだ。けっこう順調だったな。さすが埼京線。でも、
 370 もう少し詰め込まなきゃ」
 371
 372 ○シーン10 小笠原半島・南鳥島近海■キロ ホール上空 8時05分
 373 東京から千八百キロ離れた海域を飛行するエデン
 374 海面が発光し、きれいに切り取られたような大きな円がみえる
 375
 376 オペA「エデン、指定座標に現着《げんちやくぎ》しました」
 377 キタヤマ「いやはや。こういうの、東京ドーム何個分っていうんだろ。海に丸い穴が空く
 378 だなんて、モーゼに教えてあげたい気分だね」
 379 コヅカ「気をつける。これまでロイスの発言が嘘だったことはない。ちなみに、十三個
 380 と三分の二、だ」
 381 キタヤマ「全然イメージわかりませんけどね」
 382 オペC「時空振動率が九五パーセントを超えます」
 383 ニシジマ「これは来るぞ。キタヤマくん！」
 384
 385 ホールの中心が発光し、そこから生えてくるように現れる巨人の足
 386
 387 キタヤマ「もう、三本足が見えてるんですけど」
 388 オペA「巨人、出現！」
 389 キタヤマ「ルーフケイズ・フィルター、出力を七百ルーストまで上昇」
 390 オペD「ルソン島のとくと同形《どうけい》と思われます」
 391 オペB「映像、出ます」
 392 ニシジマ「サイクロプス・タイプか」

393 コヅカ 「装甲《さうこう》の色が赤いぞ」
394 キタヤマ 「巨人は一体だけだって聞いてますけど！」
395
396
397

指令室にジュリーが戻ってくる

398 ジュリー 「カメレオンのような性質なのかも」

399 ニシジマ 「チュパカブラの刺《とげ》と一緒になのかもしれない」

400 キタヤマ 「あのハイレグの三脚野郎に言ってやってください。逆立ちで出てくるのは失礼
401 だぞって」

402 ジュリー 「ロイスに伝えておきましょう。会話ができればの話ですが」

403
404 *** 収録中断箇所 ***
405

406 オペA 「巨人、浮上します。全長掌握《ぜんちようしやうあく》。五十メートル」

407 ニシジマ 「大きくなってるというわけか」

408 コヅカ 「向こうが仕掛けてくるまでは攻撃するなよ」

409 キタヤマ 「わかってます。その替わり、くだらない規則を作ったことを後悔しないでくだ
410 さいよ」

411 ジュリー 「国際法《こくさいほう》です」

412 ニシジマ 「ソロモン条約が間違っているとは言わんが、今は破っても良い気がするなあ」

413 オペA 「巨人、姿勢を逆転。両腕をあげます」

414 キタヤマ 「ルソン島で撃ちやがった変な破壊光線なんじゃないですか？ やっちゃいまし
415 ようよー」

416 ジュリー 「ダメです」

417 コヅカ 「ここは我慢だ。幸い南鳥島《みなみとりしま》に民間人は住んでいない」

418 キタヤマ 「だからって」

419 オペC 「巨人周辺のルーフケイズ結界濃度が減少しています」

420 ニシジマ 「やつもRF技術を使ってるってわけか」

421 オペA 「巨人、旋回《せんかい》」

422 オペB 「射線上に小笠原群島《おがさわらぐんとう》。誤差、プラスマイナス・コンマ
423 五」

424 コヅカ 「それでも八百キロはある」

425 キタヤマ 「ジュリエットさん！」

426 ジュリー 「ダメです」

427 コヅカ 「盾《たて》になる覚悟はできたか」

428 キタヤマ 「とっくに！」

429 ニシジマ 「フィルターのパワーはルソン島のときの百倍だ」

430 キタヤマ 「まったく安心できませんけど！」

431 オペA 「巨人の腕の発光現象、始まりました」

432 キタヤマ 「完全に敵でしょ！」

433 オペA 「腕を振り下ろします」

434
435 巨人の腕の先端が赤く輝く。吼える巨人
436

437 キタヤマ 「絶対に撃ちますよ、これ！」

438 ジュリー 「良《い》いでしょう」

439 コヅカ 「よし、行け！」

440 オペA 「巨人が光線を照射！」

441 キタヤマ 「フィルター最大展開！ RF《あーるえふ》キャノン、撃ちます！」
442
443
444

操縦桿のトリガーを引いてキャノン砲の発射音から電車の走行音に移行

445 ○シーン11 東京・お台場 りんかい線車内 8時10分

446 埼京線から直通乗り入れで模試会場に向かうミナミ。車両内は満員。

447 埼玉から乗っているミナミは席に座って、単語帳をめくって最後の追い込み中
448

449 ミナミ 「鈍《ほこ》の世、剣《つるぎ》の世が続く、楯《たて》は裂け、嵐の世、狼《
450 おおかみ》の世が続いて、ひとりとして他人をいたわる者なからん——ほろびの運命
451 の日、ラグナレク…怖そう」

452 りんかい線車内アナ（杉宮）「国際展示場。国際展示場です。出口は右側です。 This sta-
453 tion is 国際展示場。 The doors on the right side will open」

454 ミナミ 「あ、降りなきゃ」

455
456 席から立ち上がるミナミ

457
458 ミナミ 「…あの、すみません、降ります…」

459
460 ○シーン12 国際展示場駅・地下ホーム 8時11分

461 ホームを出ていく、りんかい線。発車音は FANTASIA で

462 ミナミ、混雑した地下一階ホームに降りて、右手のスマホを見ながら

463
464 国際展示場駅アナ（歩川）「二番線から電車が発車します。ドアが閉まります。ご注意ください」

465
466 国際展示場駅アナ（歩川）「本日も、りんかい線をご利用くださいましてありがとうございます。
467 います。ただいま、八月二一日まで、ラケモン・スタンプラリーを実施中です。今年
468 はりんかい線の全駅のスタンプを集めてゴールに行くと、素敵な賞品をプレゼントし
469 ます。スタンプ台の設置時間は朝9時から夕方五時まで。ゴール駅での商品引き替え
470 は朝十時から夕方四時までです。この夏は、ラケモン・スタンプラリーに参加しませ
471 ンか。詳しくは駅のポスター、パンフレットをご覧ください。スタンプラリーをお楽
472 しみいただく場合、駅のホームや電車の中で走ったり、騒いだりせずに、マナーを守
473 ってお楽しみください」

474
475
476 上りエスカレーターに乗るミナミ

477
478 ミナミ 「まずは改札を抜けて上に出て、有明中央橋《ありあけちゅうおうばし》を渡っ
479 てすぐだから、左か…」

480
481 雑踏のガヤで小笠原での異変のニュースを見た人たちがザワツキ始める

482
483 青年A 「小笠原で自衛隊の戦闘機が墜落だってよ」

484
485 青年B 「こっちの掲示板じゃ、UFOだって言ってるぞ」

486
487 青年C 「立川でデッカいロボットみたって、フェイスブックで写真出てるけど」

488
489 青年D 「それツイッターでも見たぜ」

490
491 青年E 「それ宇宙人とかじゃね？」

492
493 青年F 「日本終了のお知らせ的な」

494
495 青年G 「どうせまたガセでしょ」

496
497 青年H 「三年前の潜水艦爆発と同じなんじゃねーの？」

498
499 青年I 「バカ！ あれはセクター・ナインの秘密実験なんだぜ」

500
501 青年J 「でた。反米主義者（笑）」

502
503 雑踏の声は耳に入らないミナミは歩きながらタブレット端末を見る
504 書いてあるのはゲーテの有名な詩「神性」の一節。たどたどしく読む

ミナミ 「ただ人間だけが不可能なことをなし得《う》る。人間は区別《くべつ》し選《
えら》び、かつ裁《さば》く。人間は瞬間を永遠《えいえん》なものにすることがで
きる…うーん、ゲーテとか、わけわからんし。ほんとにこんな問題でたら文学は厳
しいかも」

地上にでる。強い陽射しで蝉が鳴いている

505 ミナミ 「うわ、溶けそう…」

506
507 左手の腕時計をみて

508
509 ミナミ 「まだちょっと早いかな。コンビニで涼もう」

510
511 蟬の声が大きくなりRFキャノンの閃光へ

512
513 ○シーン13 小笠原諸島 海上 ホール上空 8時11分

514 エデンが担いだキャノン砲が光線を放つ
515 巨人の光線とエデンのキャノンからの光線がぶつかり、エネルギーが爆発中

516
517 オペD 「RFキャノン、押されています！」

518 キタヤマ 「博士、やりますよ、アレ」

519 ニシジマ 「いきなりだが、仕方ない」

520 コヅカ 「いいですね。本部長」

521 ジュリー 「どうぞ」

522 コヅカ 「許可する」

523 キタヤマ 「了解！ リミッター解除！」

524
525 エデン操縦席内のメーターがすべて振り切る

526 エデンのキャノンの出力が上がる

527
528 オペD 「エンジン出力、千五百ルースト。最大値です」

529
530 キヤノン、巨人に直撃。照射され続ける

531
532 オペC 「ビームが巨人の装甲を焼いています！」

533 ニシジマ 「想定通りの効果だッ！」

534
535 吼える巨人

536
537 オペC 「時空振動率百二十パーセント！」

538 コヅカ 「百を超えるなどアリ得んはずだ」

539 ジュリー 「巨人が、沈んでいくわ」

540 ニシジマ 「勝ったというよりは、逃げてくれたというところか」

541
542 エデンの操縦席、指令室にアラームが鳴る

543
544 キタヤマ 「ちよつと待って。なんか変だよ」

545 コヅカ 「どうした？」

546 オペD 「エデン。システム、オールレッド」

547 キタヤマ 「いや、なんていうか、その、全体的に薄くなってません？」

548 ニシジマ 「確かに。機体が透明になっていく」

549 ジュリー 「光学迷彩機能≪こうがくめいさいきのう≫はオミットしたのでは？」

550 コヅカ 「巨人の攻撃を受けたのか？」

551 オペD 「エデン、質量≪しつりよう≫減少！」

552 コヅカ 「なんだとッ？」

553 オペD 「エデンの質量が小さくなっています」

554 オペC 「小笠原ホール、消滅しました」

555 キタヤマ 「オレの両手も、そろそろ消えそうです。あ、足も」

556 オペC 「エデン周辺環境の各数値が平常に戻りました」

557 コヅカ 「エデンからのデータは！？」

558 オペA 「転送されてくる数値がすべてゼロに向かってます」

559 ジュリー 「物理現象の理解を超えています」

560 ニシジマ 「今更それ突っ込まれても…」

561 キタヤマ「オレ、消えちゃうんすか？　つていうか、もう消えそう」
562 ニシジマ「まさか、召還術《しようかんじゅつ》をかけられたとでも言うのか？」
563

564 空中に浮かんだエデンが跡形もなく消える
565

566 ジュリー「召還術を使える人間は、この世界にはいないはずです」
567 オペA・B・C・D「エデン、消滅！」

568 ニシジマ「そんなバカな…」
569 ジュリー「こんなことって…」

570 コヅカ「すぐロイスに尋問《じんもん》だ！」
571

572 ○シーン14　ロイス独房
573 ベッドに腰掛けたロイスが不気味に笑う

574
575 ロイス「フフ。いいぞ。これは予定より速まりそうだ。フフ」
576

577 ○シーン15　有明に出現するエデン　指令室
578 室内に緊急警報が鳴り響く
579

580 オペC「東京湾内でホール反応あり！」
581 コヅカ「なに！？」

582 オペC「時速二五メートルで拡大中」
583 オペA「有明《ありあけ》上空で時空振動発生！」

584 ニシジマ「今度は直接東京を狙うつもりなのか！？」
585 ジュリー「住民の避難を」

586 コヅカ「これでは間に合わん」
587 オペC「従来の時空振動パターンとは異なっています」

588 オペD「エデンからの信号を受信！」
589 コヅカ「なんだと！」

590 ニシジマ「エデン？　テレポーテーションか？」
591 オペC「エデンが…有明埠頭《ありあけふとう》上空に、エデンが現れます」

592
593 有明埠頭上空に現れるエデン
594

595
596 ジュリー「間違いないわ。あれはエデンよ…」
597

598 ○シーン16　東京臨海広域防災公園
599 ロケ中のテレビスタッフがエデンの登場を中継している

600
601 局アナ(別)「こちらは、お台場、りんかい線・国際展示場駅で取材中に捉えている生中
602 継です。ご覧いただけますでしょうか？　この映像は映画やCGではありません！
603 アニメに登場するロボットのようなのが、突如、上空に現れました！　わたしが子
604 供の頃に見たデモンドールのようにも見えますが、大きさは…カメラ！　ビッグサ
605 イトを同じ倍率で撮して！」

606
607 騒然となるビッグサイト周辺
608
609 ガヤ全体「とにかく悲鳴と怒号・二〇秒ぐらいで」

610 局アナ「おっと！　ロボットが防災《ぼうさい》公園に向かって降りてきます。いや、
611 落下していると言った方が良くかもしれせん！」
612

613 ミナミの眼前に倒れ込むエデン
614
615 オジサン「お嬢さん、危険だから下がって！」
616 ミナミ「え？　あ…なに…」

617 エデンの目からミナミに向けて光線が放たれる
618
619
620 局アナ 「なんと！ ロボットの目から光線が人に向けて発射されました！」
621
622 ミナミ 「まぶしいッ！」
623
624 エデンからの光線がミナミに命中する
625
626 局アナ 「消えました。一瞬で蒸発！ 少女が一人、殺されました！」
627
628
629 ○シーン17 立川基地・指令室
630 壁のスクリーンに映った光景に騒然となる指令室
631 コヅカ 「今の光線はなんだ！」
632 ニシジマ 「あんなもの、追加した覚えは」
633 ジュリー 「エデンが人を殺《あや》めてしまうなんて」
634 コヅカ 「内閣総辞職ぐらいじゃ済まんぞ」
635 オペA 「エデンとの通信回線、チャネル同調」
636 ニシジマ 「キタヤマくん、聞こえるかね」
637 オペB 「応答ありません」
638 ジュリー 「バイタルサインは？」
639 オペD 「ありませ：いや、正常に受信」
640 コヅカ 「生きているなら答える。キタヤマ主任」
641
642 ○シーン18 エデン操縦席
643 キタヤマは柔らかいものをヘッドギアに押しつけられている
644 ヘッドギアのバイザーは通常跳ね上げられているため、それが直接顔にあたっている
645
646 キタヤマ 「あ：はい：」
647 ニシジマ 「大丈夫なのか！」
648 キタヤマ 「い：一応：」
649 ジュリー 「さっきの光線はあなたが発射したのですか？」
650 キタヤマ 「光線？」
651 コヅカ 「装備にない武器を使いようがなかるう」
652 キタヤマ 「それよりも、ちよっとお願いが」
653 ニシジマ 「なんだ？」
654 オペD 「エデン操縦席にダイバーの反応が二つあります」
655 コヅカ 「ありえん！」
656 キタヤマ 「どけてもらえますか：このオッパイ」
657 コヅカ 「なにを？」
658 ニシジマ 「なんだって？」
659 ジュリー 「ワッツ？」
660
661 狭い操縦席に押し込められて苦しそうなミナミ
662 ミナミの胸をヘッドギア越しに押し当てられて窮屈なキタヤマはミナミの胸を押し返す
663
664 ミナミ 「ちよ、ちよっと、触らないでください：」
665
666 ○シーン19 指令室
667 オペD 「ダイバー・レコード・システムに二重登録《にじゅうとうろく》エラー発生」
668 ニシジマ 「なんという想定外：」
669
670 ○シーン20 エピソード・ワン エンディングく次回予告
671
672

ED主題歌 1分30秒

673 次回予告用 BGM

674 ミナミ 「普通の高校生が急に大きなロボットで戦うなんて、実際、非常識にもほどがあ
675 る、と思うの。しかも、パイロット：ダイバーっていうらしいけど、それがわたし
676 以外にいないだんて…」

677 キタヤマ 「何いつてんの、おれがいるじゃないの」

678 ミナミ 「キタヤマさんなんて、大ッキライ！」

680 N 「次回、超鬼兵ガルヴアイド エデン・ダイバー。エピソード・ツー。『音速の
681 戦闘《おんそくのせんとう》』

682 ミナミ 「わたし、乗りませんから！」

683
684 ○エピソード 2・アイキャッチ

685 glitter — — = 12 秒

686
687 ○シーン 2 1 アバンタイトル 立川基地・応接室

688 蟬が鳴く昭和記念公園、地下にある立川基地

689 午前十時。エアコンの効いた八条間ほどのフロアリングの室内

690 高級なソファアに座るミナミの前に座る立川基地の面々

691 ミナミは戸惑いの表情を隠せない

692
693 ミナミ 「でも、わ、わたし、模試《もし》に行かないと。…それに、バイトも、部活も
694 あるし」

695 コヅカ 「君の生涯報酬《しやうがいはうしゅう》が幾《いく》らになるのか、さっきの
696 説明《レク》ではわかってもらえていないようだな」

697 ニシジマ 「無理もない。唐突《とうとつ》すぎる話だからね」

698 キタヤマ 「オレも結構迷ったもんね」

699 ジュリー 「嘘はいけません」

700 コヅカ 「ともかく、今は国家の、いや世界的な緊急事態だ。君に選択肢《せんたくし》
701 がないわけでもないが、よく考えることだ」

702
703 ニシジマは米人のジュリーを横目で見ながら

704
705 ニシジマ 「ダイバーシステムのエラーを解除できないとは、シリコンバレーも役に立たん
706 ものですのお」

707 ジュリー 「出来ないのではなく、三年かかると言っているのです」

708 コヅカ 「巨人に電報でも打つのか？ 次回は四年後にしてくれと」

709 キタヤマ 「まあまあ、ここは巨乳ちゃんのことを第一に考えてあげないと」

710 ジュリー 「そうでした。本当にごめんなさいね、ミナミさん」

711 ミナミ 「あの…」

712 ニシジマ 「ないだいい？」

713 ミナミ 「止《や》めてください：巨乳ちゃんって言うの…」

714
715 ○シーン 2 2 オープニング

716 N 「アドレマイズの混沌が、人類の歴史に爪痕を残した惨事から、すでに十数年が
717 経過した。しかし、我々は新たな驚異に怯えなければならなかったのだ。果たして救
718 世主はどこににいるのか。それは誰にも答えることができなかった…」

719
720 主題歌 ver2. 0 ワンコーラス 1分30秒
721 アイキャッチ

722
723 N 「エピソード・ツー 音速《おんそく》の戦闘《せんとう》」

724
725 ○前回のあらすじ

726 N 「小笠原ホールから出現した巨人に対抗するため出撃したエデンは辛《から》く
727 も撃退に成功するが、空間転移現象によって有明埠頭上空に飛ばされる。そこで、女
728 子高生ミナミと遭遇し、直後、エデンはミナミをダイバーとして登録してしまうのだ

つた」

○シーン23 ブルハトゥ移動艇

地球攻撃の最前線として派兵されているブルハトゥの小型移動艇が、マリアナ海溝の最下部で待機している

その戦闘指揮室で苛立ちを隠せず歩き回るガナミア
それを怪訝な視線で追うボグライ

ガナミア「けしからん。まったくもってけしからん」

ボグライ「ガナミア様。そんなに歩き回りますとダマスが足りなくなります」

ガナミア「ボグライ！ おまえは腹が立たんのか？ ノエディーが傷を負わされたのだぞ！」

ボグライ「ですからそれは我々のいる移動艇のダマスを維持するために、ノエディーからコンバータのパーツを多少、流用《りゆうよう》したからでありまして」

ガナミア「わかっておる。それを命じたのは我々だ」

ボグライ「さようございます」

ガナミア「あのギガンドルは瞬間転移《しゅんかんでんい》まで行《おこな》った。前回よりも強化したらしいが、我々の調査によれば、あれはこの次元のテクノロジーではないことは明らか。もしやアドレマイズの手が入っているのではあるまいな」

ボグライ「可能性は低いですが考えられないことではないかと。それよりもダマスを」

ガナミア「ダマス、ダマス！ ダマス」我々は《どうして》ダマスの薄い《この》ような次元を

浄化《じようか》しようかと決めたのだ？」

ボグライ「それゆえの浄化ではないのかと」

ガナミア「わかっておる！ それを決めたのも我々だ！」

ボグライ「では、せめてお座りになってください」

ガナミア「フン！」

壁際の王座に腰を下ろすガナミア

ガナミア「ボグライ。早急にノエディーを修復し、あのギガンドルを抹殺するのだ」

ボグライ「ははあ」

二人、垂運の呼吸で

ガナミア・ボグライ「すべては浄化のために！」

○シーン24 立川基地・食堂 12時

かなり広く清潔感のある食堂。昼時のため多くの人が食事をしている

フロアには巷で人気の♪らいっ☆、が流れている

壁際の小さなテーブルを挟んで座っているキタヤマとミナミ

キタヤマはカレーの大盛りを食べている

ミナミはラーメンを前にして、うつむいている

キタヤマ「どうしたの？ ここのランチ、なんでも美味いんだぜ。食べないなら貰っちゃ

うよ。延びちゃうともったいない」

ミナミ「…わたし、いつになったら帰してもらえるんですか？」

キタヤマ「とりあえず、巨人を倒さない事には一区切りつかないんじゃないの？」

ミナミ「その、巨人って、一度負けてる相手なんですよね？」

キタヤマはミナミのラーメンを自分の前に持ってきて食べながら

キタヤマ「今朝は打撃を与えられた。勝てる可能性はある」

ミナミ「でも、なんで、わたしなんですか？」

キタヤマ「さあね。だいたい、なんでオレなのかも、よくわかってないし」

ミナミ「それで、よく、あんなものに乗っていられますね」

キタヤマ「モテるんだよねえ。ここの肩書きって」

785 ミナミ 「は？」
786 キタヤマ 「国家安全保障委員会・特別分室。この特別分室つてのが肝心で、これだいが
787 いの女の子は落ちるね」↑キタヤマは嘘を言っています
788 ミナミ 「そんな…」
789 キタヤマ 「もつとも、このオレの精悍《せいかん》なマスクと甘い声。そして、決め手は
790 鍛え上げられた肉体美。これだけでも鬼に金棒なんだけど」
791 ミナミ 「無理です」
792 キタヤマ 「なにが？」
793 ミナミ 「わたしは出来ません」
794 キタヤマ 「なにを？」
795 ミナミ 「ロボットの操縦なんて、出来るわけありません」
796 キタヤマ 「そりやそうだよ」
797 ミナミ 「え？」
798 キタヤマ 「だから練習あるのみ、つてこと」
799 ミナミ 「れんしゅう…」
800 キタヤマ 「誰だって最初はうまくいかない。でも、何度も繰り返すことで、クリアできる」
801 ミナミ 「繰り返し、返す…」
802 キタヤマ 「それがあらゆる格闘系ゲームでハイスコアを叩き出してきた伝説のイケメン・
803 ゲームマスターの結論だ」
804 ミナミ 「げ、げーむ、ますたー…」
805
806 厨房の方でオーダーを受ける声
807
808 食堂女子（歩川）「冷やし中華四ツつ。回鍋肉《ほいかうろう》二つ、入りましたあゝ」
809 料理人たち（みんなで）「ありがとうございますッ！」
810
811 ○シーン25 立川基地・会議室 13時
812 エデンの変化についてプロジェクトで報告するニシジマ
813 それをパイプ椅子に座って聞くコヅカ、ジュリー、キタヤマ、ミナミ
814 モニターごしで参加するロイス
815 腕組みをしたコヅカはかなり苛ついている
816
817 ニシジマ 「というわけで、現状報告とボクの見解は以上です」
818 コヅカ 「了解だ。しかし、エデンの操縦席が、なぜ突然二つになったのかは、説明でき
819 んというわけか？」
820 キタヤマ 「昼飯直後じゃ眠たくなる内容っすね、こりゃ」
821 ミナミ 「あの…」
822 ニシジマ 「I C M C 《あいしーえむしー》でも、ありえない状況だと言っています。（ジ
823 ユリーを横目で）まあ、いつものことですが」
824 ジュリー 「開発時の設計仕様は厳格に精査されています。ですが、日本が独自に組み込ん
825 だルーフケイズフィルターの増幅器は、わたくしたちにとってはブラックボックスそ
826 のもの。引き起こされる現象は未知数です。責任が取れる範囲を超えています」
827 コヅカ 「それは承知の上での搭載だ。とは言うものの、これはナンセンスだ」
828 ミナミ 「…この人たち、わたしの話、ぜんぜん聞いてないのかも（涙）」
829 ロイス 「デモンコアが、ダイバーは二人必要だと判断したのかもしれない」
830 キタヤマ 「オレー人じゃ勝てないってことすか？」
831 ロイス 「フフ。そういうことだ」
832 キタヤマ 「バツサリと来たね」
833 ジュリー 「では逆に、ダイバーが二人いれば、巨人に勝てる。ということですか？」
834 ロイス 「それはどうかな」
835 コヅカ 「貴様ッ！ …いや、失礼。ロイス殿は巨人を倒す方法を知っているというから、
836 こうして優遇されているということを、少しは理解していただきたい。あなたのいる
837 その部屋の維持には毎日五百万円を費やしているのですよ！」
838
839
840

ポテトチップスを袋から取り出して食べるニシジマ

841 ニシジマ 「ボクの研究費が削られてるのかもね」
842 ジュリー 「ドクター・ニシジマ。スナックを食べるのは後にしてください」
843 ニシジマ 「これはボクの知恵の源《みなもと》なのですよ」
844 ロイス 「ノエディーは君たちの住むこの次元とは異なる世界に住むブルハトゥという種
845 族の破壊兵器だ」
846 コヅカ 「(苛立ち頂点) 初めて聞く話だが」
847 ロイス 「思い出したのさ」
848 ニシジマ 「この期に及んで、異世界でも異次元でも、もう全然驚かないですがね」
849 ミナミ 「いじげん？ わたし、そんな人たちと戦えるわけないよ……」
850 ジュリー 「そのブルハトゥは、なぜわたくしたちの世界を攻撃するのですか？」
851 ロイス 「さあ、それはわたしも彼らに訊いてみたい質問だね」
852 コヅカ 「彼ら、という事は、ロイス殿はブルハトゥとやりに会ったことがあるのか？」
853 ロイス 「何個目か前の世界で、噂《うわさ》を耳にしたのさ」
854 ニシジマ 「噂、ときたまんだ」
855 ジュリー 「そこでもブルハトゥは破壊の限りを尽くしたのですか？」
856 ロイス 「そうらしい」
857 コヅカ 「で、ようするに、どうやって倒せば良いと？」
858 キタヤマ 「それはオレが一番知りたい項目だね」
859 ロイス 「デモンコアの力を最大に活かすには」
860 ニシジマ 「まだ隠し事があったのか。呆れるね」
861 コヅカ 「活かすには？」
862
863 ○シーン26 マリアナ海溝・海底 ブルハトゥ小型艇内
864 修復されたノエディーを観あげて満足げなガナミア
865 横に遣えるボグライ
866
867 ガナミア 「良《よ》いぞ。良《よ》いではないか。ボグライ」
868 ボグライ 「ははぁ。お褒めに預かり光栄です。ガナミア様」
869 ガナミア 「青いノエディーも、また美しい」
870 ボグライ 「ダマスの変換効率を十テガロンほど調節いたしましたゆえ、青さにも深みが増
871 したかと」
872 ガナミア 「この我々の分身であるノエディーが、あの忌々《いまいま》しきギガンドルを
873 片づける様を思い浮かべると、笑いが止まらん」
874 ボグライ 「やつらが、いくらアドレマイズの力を持っていようと、このノエディーの前で
875 はバクテリア以下。浄化の邪魔をするものはいなくなることでありましょう」
876 ガナミア 「その通り。我々の正義を妨げる者は粉碎するのみ。そして、この次元も浄化さ
877 れ、美しき楽園に変わるのだ。そうだな、ボグライ」
878 ボグライ 「その通りでございます」
879 ガナミア 「これで浄化の地盤づくりも完成に一步近づくわけだ。我々の後続部隊が次元突
880 破するまであとわずか。しかし、このようなダマスのない次元など、いっそのこと一
881 握りに滅ぼしてしまえば良いものを、ズーラなどいう得体のしれぬフェアリア族の言
882 うことに耳を傾《かたむ》けるとは、総督《そうとく》の懐《ふところ》も、深すぎ
883 るとは思わぬか？ ボグライよ」
884 ボグライ 「ズーラの言う、ここ第五番世界には、我々の最も愛するものが蔓延していると
885 のこと」
886 ガナミア 「それが何なのか、お前は訊いたことがあるのか！」
887 ボグライ 「いえ。ですが、総督のご命令とあつては」
888 ガナミア 「ダマスの濃度が極めて薄いこの次元に、我々に必要なものなどあるうものか。
889 総督は、なぜ、浄化の速度に長時間をかけて行うのか確認できないのは肝に据えかね
890 るな。ボグライよ」
891 ボグライ 「次元を超えるにはバースト・フェノメノン※滅多に起きない現象。十年に一度
892 くらい。宇宙的には頻発って感じですが※が必要であり——」
893 ガナミア 「わかっておる。ギガンドルめ。次で最期にしてやる。そうだな——ボグライ。
894 お前がこのノエディーに乗り込み直接ギガンドルを倒すのだ」
895 ボグライ 「なんと！ そのような重責《じゅうせき》は」

896 ガナミア 「重責もなにもあるものか。我々の中でノエディーに最も詳しいのは誰だ？」
897 ボグライ 「わ、我々にてございます」
898 ガナミア 「ならば、ギガンドールを葬《ほうむ》り、万時《ばんじ》、事を進めるのに最も適した者は誰か？」

900 ボグライ 「わ、我々にてございます…」

901 ガナミア 「では、早速、出陣の儀《ぎ》を執り行う準備をいたせ」

902 ボグライ 「ははあ」

903 ガナミア・ボグライ 「すべては浄化のために！」

904
905 ○シーン27 昭和記念公園 夜 24時

906 街の灯りも少なくなり静まり返った昭和記念公園敷地内にはヒグラシの合唱が響く
907 その一角でスポットライトを浴びてそびえたつエデン
908 それを少し離れたトーチカから見守る立川基地の面々
909

910 コヅカ 「予定の時刻だ。これから二六時までの二時間は、三〇キロ圏内上空の飛行禁止
911 も発令した。人避《ひとよ》けも徹底している。とはいえ、一度有明で姿をさらして
912 しまったエデンだ。パパラッチが望遠で狙っていないとも限らん。慎重に行けよ」

913 ロイス 「今夜は良い湿度だな。あの部屋よりも気持ちが良い」

914 ジュリー 「わたくしたちは熱帯夜と呼んでいて、あまり好ましい環境ではありません」

915 ニシジマ 「あなたが防護服を着用せずに外に出られるというのは、相当不快指数が高いと
916 いうことなんですよ」

917 ロイス 「フフ。まるでナメクジ扱いだな。まあ、そこに腹を立てても仕方がない」

918 オペA 「エデン、ツインダイバーシステムコントロール、スタンバイOKです」

919 オペD 「エデン胸部のデモンコアならびに操縦席内に異常なし」

920 ニシジマ 「積んだ途端にトラブったら、ちよっとシヤレにならんですが」

921 ロイス 「デモンコアがエデンの中にいることを望んだのだ。問題なからう」

922 ミナミ 「このお水がミールの泉で汲んだものだっただけに」

923 ニシジマ 「ほお。北欧神話か。そういう意味では今キミはミッドガルドからヨツンヘイム
924 に入ったってことだ」

925 ミナミ 「そうでしょうか…」

926 キタヤマ 「場所は変わったけど、見た目は前のまんま。ホントにダイジョブなんすか？」
927 ジュリー 「キタヤマくんは機体の姿勢制御のために集中してもらうことになったのですか
928 ら慎重に」

929 ニシジマ 「彼用の操縦席が下半身にあるってのが、いかにもらしくていい。イヒヒ」
930 キタヤマ 「オレ、褒められてる？(笑)」

931 ロイス 「姿勢制御以外をミナミに委ねたというのが面白い」

932 ジュリー 「ミナミさんに何らかの勝利の鍵があるということなのでしょう」
933 ロイス 「だと良いがな」

934 コヅカ 「中途半端な二人羽織だ」

935 ニシジマ 「まったくもって不可解・極まらない話ですがね」
936 コヅカ 「胸部のミナミくんと下腹部のキタヤマ主任は無線と有線で通信できる。万が一

937 のために伝声管《でんせいかん》も取り付けた。場合によっては君たちの持っている
938 モバイルでも話は出来るだろうがマナーモードにしておくように」
939

940 伝声管で遊ぶキタヤマ

941
942 キタヤマ 「こういうの、映画で見たことあるよ。アーアー、聴こえる？ 巨乳ちゃん？」
943 ミナミ 「(うるさそうに) 聴こえますう。…(こんな最新式のスマホわたされても、アド

944 レス帳に誰も入ってないんじゃ、ないのと同じだよ…」
945 ニシジマ 「RFL《あーる・えふ・える》は液体なのに空気振動をロスなく伝搬《でんぱ

946 ん》できる。なのに衝撃波の吸収力は比類なき特性。これだけでもエデン以外に転用
947 できないなんて、ソロモン条約は人類にとって不利益な取り決めだと思いませんか？」
948 ジュリー 「どんな科学技術も、平和のためだけに使われると限らないのは、ドクターが一
949 番存知でありましょう？」

950 ニシジマ 「本部長に言われると説得力ありますな」

951
952 ○シーン28 昭和記念公園 24時30分
953 エデンを見上げるコヅカは、ハンドマイクを手にして
954

955 コヅカ 「では打合せ通りに行く。操作マニュアルは読める位置にあるな。ミナミくん」
956 ミナミ 『わたし、まだ、なにも返事してないのに…』あ、は、はい。目の前に貼って
957 あります」

958 ジュリー 「ダイバーウェアに違和感はありませんか？」

959 ミナミ 「はい。一応、大丈夫です」

960 ニシジマ 「予備品とは言っても精査基準はクリアしていますからね。それよりも彼女のR
961 FLへの順応の良さに驚くばかりだ」

962 キタヤマ 「でも胸がキツいんじゃないの？」

963 ミナミ 「そんなことはありません！」

964 オペA 「コントロールテスト開始。右手の動作から順次記録します」

965 オペD 「エデン、システム・オールグリーン」

966 コヅカ 「よし。はじめ！」

967 ミナミ 「大きく息を吸って」 はい」

968

969 右手が少し動くエデン

970

971 ミナミ 「手は動かせました」

972 ニシジマ 「ミナミくんの方はモーショントレース方式なんだから、これくらいはできない
973 とね」

974 コヅカ 「よし。次だ。歩けるか？」

975 ミナミ 「…やって、みます」

976

977 恐る恐る一步を踏み出すエデン。しかし、よろける

978

979 ジュリー 「危ない！」

980 ミナミ 「え？ どうして？」

981 オペA 「エデン、倒れます！」

982 コヅカ 「ターン・バックル※ワイヤーに張力をかける装置のことです※起動！」

983

984 エデンを牽引するために四方から伸びたワイヤに張力がかかる

985

986 ニシジマ 「踏みとどまった！」

987 キタヤマ 「なるほど、巨乳ちゃんの動きに呼吸を合わせないと、歩くことさえできないわ
988 けだ」

989

990 ロイス 「フフ。とんだ救世主だな」

991 ジュリー 「あなたの提案ですよ」

992 ニシジマ 「だが巨人に対抗するにはこうするしかない」

993 コヅカ 「なんというトレードオフだ」

994 キタヤマ 「大丈夫。いけますよ！ 巨乳ちゃん、もう一度歩かせて」

995 ミナミ 「は、はい」

996

997 歩き出すエデン

998

999 *** 収録中断箇所 ***

1000

1001 オペA 「歩行速度、時速■キロで安定しています」

1002 ミナミ 「おお、勘をつかんだか。さすがアスリートの鏡！」

1003 キタヤマ 「いいぞ。よし、走ってみよう」

1004 ジュリー 「いきなり危険すぎます」

1005 キタヤマ 「走れたら今度デートしてくださいよ、ジュリエット本部長殿！」

1006 ジュリー 「あなたがロミオでないのが残念です」

1006 ミナミ 「いきます！」

1007 ミナミ、大きく息を吸う
1008
1009

1010 ミナミ 「走るよ。ロボットさん…」

1011 走り出すエデン。BGMはとびうおジャンプ風

1012
1013 オペA 「走行速度、時速■、■、■（徐々に加速）」

1014 ニシジマ 「よ！ お見事ッ！」

1015 キタヤマ 「オレって、やつぱり天才かも」

1016 ジュリー 「もうこの辺でよろしいのではないですか？」

1017 キタヤマ 「これ、もしかして飛べちゃうかも！」

1018 コヅカ 「許可でせん」

1019 キタヤマ 「じゃ、やめときます…と黙っちゃられないのが、オレの性格！」

1020
1021 発光するエデン胸部に埋め込まれたデモンコアのケージ

1022 ロイス 「ほお。デモンコアが輝きだしたか」

1023 オペD 「エンジン出力上昇。二千ルーストを超えます」

1024 ニシジマ 「これがデモンコアのチカラ」

1025 ジュリー 「ダイバーが二人になっただけで」

1026 ニシジマ 「いや、もっと根本的に何かが変わった可能性がある」

1027 ミナミ 「とつても軽い。…新しい靴を履いたときみたい」

1028 キタヤマ 「よし、飛ぶぜ！」

1029 ミナミ 「はい」

1030
1031 飛翔するエデン。引きちぎれる牽引ワイヤーロープ

1032
1033 ニシジマ 「飛んだ」

1034 コヅカ 「バカめ。大事なワイヤーを引き千切りおつて。二億円が水の泡だ」

1035 ロイス 「ケチな人種というのは、どの世界にもいるものだ」

1036 ジュリー 「あの二人、本当にはじめてなの…」

1037 キタヤマ 「初体験《はつたいけん》にしては上手いじゃないか」

1038 ミナミ 「やめてください。そういうの」

1039 ニシジマ 「意味はわかるようだ。イヒヒ」

1040 ミナミ 「…え？」

1041 キタヤマ 「いいねえ。その調子、その調子」

1042 ロイス 「すばらしい『…まさに予定通りだ』」

1043 ミナミ 「でも、とんでる。わたし、空を飛んでる」

1044 コヅカ 「よし。起動テストは終了だ。エデンはすぐ降りてこい。仮眠の後、朝食をとつて6時からブリーフィングを行う。食べざる者、働くべからず！」

1045 キタヤマ 「了解ッ！ オレ、カツ井と味噌ラーメンのセットで行きます！」

1046 ミナミ 「なんか、これでいいの？ほんとに…」

1047
1048
1049
1050

1051 ○シーン29 ノエディー発進の儀式

1052 ノエディー発進に伴い行われる儀式

1053 ブルハトウの小型艇内格納庫で発進準備が整ったノエディーに呪いの術をかけるボグライ

1054
1055 ボグライ 「♪ニヤマラー ゴノムヒ・ズベラドー ラマソフトーヲ ヌルパン カサド・

1056 クラ（3回繰り返す）」

1057
1058
1059
1060
1061
1062

それをガラス一枚隔てた隣の部屋から見るガナミア

ガナミア 「なんと誇《ほこ》らしき勇士《ゆうし》。我々のノエディーが浄化の道しるべを切り開くのだ。さあ、ボグライよ。こざかしいギガンドルをお前のその手で切り刻み、ルーフケイズの塵《ちり》に換え、ダマスとして喰《く》らうのだ！」

1063 ボグライ・ガナミア「すべては浄化のために！」

1064
1065 ○シーン30 ノエディー出現 5時

1066 立川基地の仮眠室。時計の秒針の音だけが聴こえる

1067 眠っているキタヤマ。いびきを掻いている。

1068 大の字に寝ていると思ったらシーツを抱えて寝言を言う

1069
1070 キタヤマ「さとみちゃん、もっと遊ぼうよぉ」

1071
1072 二段ベッドの上段で眠れないミナミ

1073
1074 ミナミ「どうしよう。こんなことになって、わたしには絶対無理だよ…」

1075
1076 立川基地レーダー網にアラート

1077 コヅカは目をさまし、枕元のヘッドセットを耳に当てる

1078
1079 コヅカ「何があった」

1080 オペB「マルヨンゴロークから小笠原ホールの反応が急上昇しています！」

1081 コヅカ「なんだと！」

1082
1083 ○シーン31 立川基地・指令室 午前五時二〇分

1084 壁の大型スクリーンを前に立つ、コヅカ、ジュリー、ニシジマ

1085
1086 オペC「マルゴーフタマル。小笠原ホールの時空振動率が九〇パーセントまで推移して

1087 います」

1088 オペA「エデンのツインダイバー・シンクロシステム、正常に作動中」

1089 ニシジマ「ブルハトウにメールくらい打たなかつたんですか？ ジュリエット本部長」

1090 ジュリー「送れるわけがありません」

1091 ニシジマ「もつともで」

1092 キタヤマ「カツ井と味噌ラーメンの恨みは晴らせてもらうぜ」

1093 コヅカ「いいか、ミナミくん。いきなりの実践だが、キタヤマ主任がカバーしてくれる。

1094 巨人との距離は一キロメートル以上接近しないこと。キヤノン砲の使用回数は五発が

1095 限界だ。リアクターシールドは常に前面に構えること。そして絶対に近接戦闘は避ける

1096 こと。昨日《きのう》の今日《きょう》だ。ブルハトウが巨人のバリアを強化して

1097 いないことを祈っている。君しかいないのだ。わかったか？」

1098 ミナミ「（小声で）わかりません」

1099 コヅカ「（怪訝に）なんだと？！」

1100 ジュリー「（諫めるように小声で）ミスター、コヅカ」

1101 オペC「小笠原ホール。時空振動率百パーセント」

1102 キタヤマ「大丈夫だよ、巨乳ちゃん。オレがついてる！」

1103 ミナミ「巨人との距離だとか…盾を前に構えてるとか、できません！」

1104 ニシジマ「正論ではある」

1105 オペA「巨人、出現」

1106 コヅカ「では済まない状況なのだ。エデン、リフトアップ！」

1107 エレベータで発進ハッチに上昇するエデン

1108
1109 ○先シーン32 エデンの飛行が生中継される 午前五時三〇分

1110 中継車のルーフドアを開けて身を乗り出して、上空を飛行していくエデンを見ながら中

1111 継するマナカ

1112
1113
1114 先・マナカ「こちら現場のマナカです。現在時刻は朝五時三〇分。立川市にある昭和記念

1115 公園に到着したところです。ご覧ください。公園の中心付近から、金色の粒子の軌跡

1116 を残しながら、高速で移動する物体が飛び立ちました。シルエットからして通常の飛

1117 行機ではありません。昨日の朝、有明に現れた巨大ロボットに間違いありません。我

1118 が国は、あんなものを隠し持っていたのです。アドレマイズ事件から十三年経った現

1119 在で、こんなことが許されて良いのでしょうか！ 都市伝説は本当だったのです！」

1120
1121 中継用音声回線を一度切るディレクターのホンマ

1122
1123 ホンマ 「おいマナカ。もう少し御しとやかにいけよ。こっちは不法侵入してるんだ」

1124 先・マナカ 「せつかく種子島からとんぼ帰りしてきたのよ。でも、わたしの勘は当たって

1125 たでしょ。オト、乗せて！」

1126 先・マナカ 「いったいどこに向かっていくのでしょうか。これから局の衛星回線も使って

1127 追跡したいと思います！」

1128 ホンマ 「さあ、おれたちもジェットヘリで追っかけよう」

1129 先・マナカ 「了解ッ」

1130
1131 急発進する中継車

1132
1133 ○シーン33 立川基地・指令室

1134 テレビモニターを見ながらスナックを食べるニシジマ

1135
1136 ニシジマ 「イヒヒ。都市伝説ですって」

1137 コツカ 「かまわん。国民に説明する手間が省ける」

1138 ジュリー 「我が国なら、もっとメディアの危機管理を徹底していることでしょ」

1139 コツカ 「記者会見用のスーツでも新調しておくことですな。本部長は世界の顔になる」

1140 ニシジマ 「ヴィトンの似合う国際人ランキング上位に食い込みますよ、きっと。ボクは白

1141 衣がいいでしょうね。博士っぽくないと」

1142
1143 ○シーン34 ロイスの独房

1144 壁のモニターから指令室の状況が聴こえる

1145 ソファアーに座りニンマリしているロイス

1146
1147 ロイス 「フフ。感じるぞ。悪意に満ちた怨念《おんねん》の波動を」

1148 オペC 「小笠原ホールが収縮をはじめたようです」

1149 オペA 「巨人が本州に向かって直進中。移動速度はマッハ二・五」

1150 ニシジマ 「今度はブルーか」

1151 コツカ 「延長線上に東京か。目的はなんだ？」

1152 オペD 「このまま行くとエデンと巨人は八丈島沖でコンタクトします。予想時刻はマル

1153 ゴーゴーマル」

1154 ニシジマ 「まさか昨日の仕返しとか、そんな単純なわけない、かな？」

1155 コツカ 「念のため東京、神奈川、千葉、埼玉の都県全域に避難勧告。環状十号線の防災

1156 フェンスを展開するよう国交省《こつこうしよう》に連絡しろ」

1157 オペB 「こちら立川基地。国交省にケース・ダブルエックスの発令を要請します。繰り

1158 返す、こちら立川基地。国交省に〜」

1159
1160 ノエディが予想よりも早く再攻撃をしてきたことに、ほくそえむロイス

1161 ロイス 「フフ。なかなかやるじゃないか、ブルハトゥめ。そろそろ心の準備が必要かも

1162 な。フフフ」

1163
1164 ○シーン35 ノエディの操縦席

1165 飛行するノエディの操縦席で、決意みなぎるボグライ

1166
1167 ボグライ「ダマスのコンバータは調子が良いようだ。ソードのパワーも上昇している。ギ

1168 ガンドールとの接触が楽しみだが、その姿を拝めるのも、わずか数バリュマーに過ぎ

1169 ないだろう。楽しみだ」

1170
1171 ○シーン36 エデンで移動するキタヤマとミナミ

1172 マッハ1.5で飛行するエデン

1173
1174

1175 オペA 「巨人とのコンタクトまで六〇秒」
1176 オペD 「エデンと巨人の高度、一万五千メートル。ほぼ同一線上です」
1177 ジュリー 「T C A S・6（ていーきやす・しつくす）の性能を信じるしかないですね」
1178 キタヤマ 「良い感じで飛べてるけど気分はどう？」
1179 ミナミ 「いいハズありません」
1180 キタヤマ 「それでもちゃんと動くつてのがすごいね。エデン様は（笑） ホントはやる気
1181 満々じゃないの？」
1182 ミナミ 「そんなわけありません」
1183 コヅカ 「もうエデンのリーダーにも反応しているはずだ。緊張感を持って行けよ」
1184 キタヤマ 「むこうはマッハ三で飛んでくるんでしょ。相対速度いくつになると思ってるん
1185 ですか、大臣」
1186 ニシジマ 「たしかに一瞬すぎるね」
1187 オペA 「巨人、急減速！」
1188
1189
1190

エデンの目の前、三百m手前の空中で停止して仁王立ちになる巨人

1191 キタヤマ 「おいでなさった！ 右三〇度に旋回！」
1192 ミナミ 「は、はい！」
1193
1194
1195

巨人の右側をすり抜けるエデン。エデンを狙うように向きを変える巨人

1196 オペB 「巨人との距離、三百メートル」
1197 キタヤマ 「ギリ、セーフって感じ！ 危なかったな」
1198 ニシジマ 「あんな急減速を：イナーシャル・キャンセラーは、ブルハトウの方が上を行っ
1199 てるつてことか」
1200 オペD 「エデン操縦席内での加重制御、有効です」
1201 コヅカ 「速度を下げ過ぎると光線を照射されるぞ」
1202 キタヤマ 「わかってますつて」
1203 オペA 「巨人がエデンを追従≡ついじゅう≫しています」
1204 ニシジマ 「あの光線の射程距離はもつとあるはずなのに、どうして近づく必要があるんだ」
1205 ミナミ 「一キロ以上離れるなんて無理です！」
1206 ボグライ 「フフ。ハハハハハ。ギガンドルめ。逃げ回るだけか？ だが、そうはいかん」
1207 ミナミ 「ちよ、ちよつと、近すぎます！」
1208 キタヤマ 「離れよう。バックオーライ！」
1209 オペC 「巨人の腕にエネルギーが集中していきます」
1210 コヅカ 「光線を撃つ気だぞ」
1211 ミナミ 「え？ つと、キャノン砲、一発目、準備します！」
1212 オペC 「巨人の腕に集まる粒子の反応が昨日とは違うようです」
1213 ボグライ 「まあ、不甲斐ない相手でも、倒せばガナミア様がお喜びになることだろう。さ
1214 あ、真つ二つにしてくれる！」
1215 キタヤマ 「シールドを構えて」
1216 ミナミ 「そんなこと言われても」
1217 ニシジマ 「そうか。光線じゃない。サーベルにして使うつもりなんだ」
1218 ボグライ 「では、さらばだ。ギガンドル！」
1219
1220

巨人の両腕から光の剣が出て、振りかざす

*** 収録中断箇所 ***

ミナミ 「キャノン砲、撃ちます！」

エデンが右手のキャノン砲を撃つ

ボグライ 「お笑いだな」

交わす巨人

1231 キタヤマ 「かすただけか！」
1232 コヅカ 「昨日よりも動きが早いのか！」
1233 オペC 「RFキャノン、海面に着弾。潮流《ちようりゆう》に異常なし」
1234 オペB 「御蔵島《みくらじま》方向から接近する機体があります」
1235 オペB 「照合しました。ニチアサテレビがチャーターしたジェットヘリです」
1236 ジュリー 「戦闘に巻き込まれます」
1237 コヅカ 「すぐに引き返させろ」
1238 キタヤマ 「そんなのまで面倒見てる暇ないですよ！」
1239 オペB 「ヘリがRFキャノンの有効射程距離圏内に入りました」
1240 ニシジマ 「自殺行為だ」
1241 ボグライ 「ほらほら、どうした。ギガンドール」
1242 キタヤマ 「巨乳ちゃん、撃って！」
1243 ミナミ 「ダメです！ 外したらテレビ局さんに」
1244 キタヤマ 「そんな事言ったらこっちがやられる」
1245

1246 ○シーン37 ヘリからの中継
1247 マナカたちの乗るヘリからもエデンと巨人の姿が見える
1248 マナカはシートベルトを外して扉を開けて、裸眼で見たい欲求を抑えて実況
1249

1250 先・マナカ 「今、八丈島の東、約二三〇キロの海上です。ご覧ください。立川から飛び立
1251 った巨大ロボットが、そのまた倍近い大きさの：なんと形容すれば良いのでしょうか。
1252 遺跡から発掘される土偶のようなボディに三脚がついたような不思議な形状の
1253 青い物体と戦闘中のです。立川のロボットが日本のものだとなれば、青い三脚は
1254 どこか敵国の兵器なのでしょう」
1255

1256 ○シーン38 キャノンを撃てないミナミ
1257 もてあそぶようにソードを振るう巨人
1258 ジグザグで後退するしかないエデン
1259

1260 ボグライ 「戦意喪失《せんいそうしつ》とは片腹痛《かたはらいた》い。ギガンドール！」
1261 ニシジマ 「巨人の狙いは明らかにエデンそのものなんだ」
1262 コヅカ 「見ればわかる」
1263 ジュリー 「作戦を伝えるのがこちらの責務ではないのですか？」
1264 コヅカ 「名案があるなら、今すぐ提示してください」
1265 キタヤマ 「狙いがオレたちなら考えがある」
1266 ニシジマ 「どうするつもりだ？」
1267 ボグライ 「ほらほら、どうした！」
1268 ミナミ 「わたし、もうダメです！」
1269 キタヤマ 「オレは鋼《はがね》のラガーマンですよ。でかい相手でも足下《あしもと》に
1270 タックルすれば倒せるつてのが王道です」
1271 ミナミ 「ラグビーなんてテレビでみたことくらいしかありません！」
1272 キタヤマ 「それで充分！ イメージ、イメージ！」
1273 ニシジマ 「そうか。巨人は逆さで現れて反転した。つまり、横倒しでは何か不都合が生じ
1274 る可能性がある」
1275 コヅカ 「よし、決めろ。ミナミくん」
1276 ミナミ 「無理です！」
1277 コヅカ 「無理でもやれ！」
1278

1279 ○シーン39 マナカたちのヘリが戦場に
1280 ヘリで戦場にうに突入するマナカたちのジェットヘリ
1281 中でどこまでエデンたちに接近するのか揉めている
1282

1283 先・マナカ 「立川のロボットが青い三脚に押されています！ 青い三脚がわたしたちの敵
1284 になるのでしょうか！」
1285 ホンマ 「これ以上は危険だ」
1286 ホンマ 「目の前で起きている事実を伝えるのがジャーナリストでしょ！」

1287 ヘリ操縦士（ ）「個人的には非常に興味のある現場ですが、社の方からも撤収命令が
1288 来たんで引き返します。頂いた料金は返金しますんで！」
1289 先・マナカ「ちよっと！」
1290

1291 旋回するジェットヘリ
1292

1293 ○シーン40 エデンはヘリが邪魔で戦えない
1294 ジェットヘリが八百メートルくらいまで接近してきて戸惑うミナミ
1295 攻めるボグライはソードを振り回す。間際で避けられるエデンはキタヤマのおかげ
1296 だがミナミの操作感覚は研ぎ澄まされている
1297

1298 ボグライ「ほら！ ほら！ ほら！ ほら！ ほら！ ほらッ！」
1299

1300 ミナミ「キタヤマさん、もうダメです！」

1301 キタヤマ「まだホイッスルは鳴ってない。もっともノーサイドなんてまっぴらだけどね！」
1302

1303 オペD「エデンのエンジン出力が徐々に上がっています」

1304 ニシジマ「防戦一方とはいえ、物凄い動きだ」
1305

1306 コヅカ「だがこのままでは意味がない」

1307 ロイス「フフ。そんなことはないさ」
1308

1309 キタヤマ「巨人の足に突っ込めばいいんだよ！」

1310 ミナミ「そんなこと言われても」

1311 ボグライ「ほお。なるほど。あの小さな機械のせいというわけか。ならば！」
1312

1313 オペA「巨人の旋回パターンが変わりました」

1314 ニシジマ「いかん！ ヘリを狙う気だ」
1315

1316 ジュリー「なぜ？」

1317 ニシジマ「巨人に訊いてください」

1318 先・マナカ「青い三脚が、急にこちらに向かってきます！」
1319

1320 ミナミ「あ、テレビ局さんが！」

1321 ミナミはとっさにヘリをかばおうとエデンを移動させる
1322

1323 ボグライ「思ったとおり過ぎて、たまらぬな」
1324

1325 キタヤマ「背中を向けちゃだめだ！」

1326 ミナミ「え？」
1327

1328 ボグライ「いただく！」
1329

1330 巨人が両腕のソードを一本束ねてエデンの背後から斬る
1331

1332 ニシジマ「マズイぞ！」
1333

1334 エデンの腰に食い込んでいく巨人のソード。エデンの操縦席にも震動が伝わる
1335

1336 キタヤマ「ダメか！」
1337

1338 ミナミ「きやーーーーー」

1339 オペD「エデン、腰椎《ようつい》部分で分断！ されました…」
1340

1341 オペA「エデンの落下コースをトレース」

1342 オペC「やってます！」

先・マナカ「立川のロボットがやられました」

オペD「エデンのエンジン出力低下。千、五百、二百、五十ルースト」

コヅカ「予備動力に切り替える」

オペD「エラーコード・ハチマルゴ発生」

ニシジマ「十二系統も冗長《じょうちょう》構成にしたのに…」

コヅカ「なんてことだ」

○シーン41 勝ち誇るボグライ

巨人の動きを止めて、ほこらしげなボグライ

1343 ボグライ「はは。ははははは。脆《もろ》い。脆い。脆すぎるぞ。簡単に片付きす
1344 ぎたが、これも我々の正義の証《あかし》だ。ご覧いただけましたか。ガナミア様」
1345 ガナミア「つまらぬイクサだったが、浄化の道すがらには良くあることだ」
1346

1347 ○シーン42 ミナミたちを救助する
1348 巨人が撤退する
1349

1350 オペA 「巨人が移動します」
1351 オペC 「小笠原ホールが出現」
1352 コヅカ 「見切りをつけたということか」
1353 ジュリー 「それよりミナミさんたちは！」
1354 コヅカ 「フィルターのない状態でこのまま海面に落下したら」
1355

1356 エデン下腹部の操縦席のすぐ上を巨人のソードで斬られたキタヤマは頭部から出血
1357 苦しそうに通信してくる。ミナミは呻くだけ
1358

1359 キタヤマ 「博士。いつだったか、パラシュートを付け過ぎだつて言ったの謝りますよ」
1360 ニシジマ 「キタヤマくん、生きていたのか！」

1361 キタヤマ 「勝手に殺さんでくださいよ」
1362 コヅカ 「ミナミくんは？」

1363 ミナミ 「ううう…」

1364 オペA 「ダイバーA《えー》のサチュレーション※動脈血酸素飽和度※、100%」

1365 ニシジマ 「新しい操縦席のシェルは渾身の補強をしてあるからね」

1366 オペD 「パラシュートは九基すべてが正常です。七秒後に展開します」

1367 コヅカ 「よし。あのジェットヘリに救助させろ！」

1368 ジュリー 「民間機ですよ！」

1369 コヅカ 「最大のピンチにどのプライオリティーを規範にしたのかは歴史が証明してくれ
1370 る」

1371 ニシジマ 「エデンも回収しないと」

1372 コヅカ 「硫黄島《いおうとう》のメンテナンス・タンカーを現場に急行させろ。パーツ
1373 はすべて回収するように」

1374 ○シーン43 ヘリの中
1375

1376 ニチアサテレビがチャーターしたジェットヘリの中
1377

1377 震えているミナミは毛布にくるまっている
1378

1378 それを信じられないという目で見えるマナカ
1379

1380 先・マナカ「本当に、この子があのロボットを…」
1381 ミナミ「……」

1382
1383 キタヤマは頭から血を流しているが、タオルで応急的に止血されている
1384 かなり重症で息が上がっているがそこは強がりで

1385
1386 キタヤマ「オレのおかげがあつてこそつての、忘れないでよ…」

1387 先・マナカ「あなたは…たしか三年前のラグビー日本代表。ポジションはウィングの」
1388 キタヤマ「さすが、オレって有名人…」
1389

1390 コヅカからの無線が入る
1391

1392 コヅカ 「いいか。これは国家機密の中でもトップクラスだ。署名捺印なしで守秘義務を
1393 負ったと思うてもらう」
1394 ホンマ 「だそうだ」

1395 先・マナカ「これはちよつと衝撃的ですよ」

1396 ヘリ操縦士「まさか仕事で横須賀基地に入れるとは思ってもみませんでしたよ」

1397 コヅカ 「ともかく可能な限り最速で飛行してくれ。許可はすべてこちらでとる」

1398 ミナミ 「…ダメだよ。無理だよ。わたしなんか乗っていたから負けたんだよ。きつ

1399 と他にちゃんとした強い人がいるんだよ。わたしじゃダメなんだよ…)」

1400
1401 ○シーン44 エピソード2エンディング

1402 ED主題歌 1分30秒
1403 次回予告用BGM
1404

1405 ニシジマ「もうボクの理解できるレベルを超えてますね。これは技術や理論ではなく一番
1406 嫌いな根性の世界。上下に分断されたエデンでもう一度戦いを挑もうってんだから。
1407 ロイスもロイスだけど、ジュリエット本部長も賛成するとは思いましなんだ。きつと
1408 コヅカ大臣と一緒に、結局はメンツが大事ってことなんですかねえ」

1410 ジュリー「わたしは、世界を救いたいだけです」

1411 ニシジマ「でも、それにはミナミくんが協力してくれないと…」
N 「次回、超鬼兵ガルヴァイド エデン・ダイバー。エピソード・スリー。『ふし
1412 ちよう作戦』」
1413 ミナミ「わたし、絶対に乗りませんから！」
1414

1415 ○シーン45 エピソード3アバンタイトル・マナカの中継 昭和記念公園 12時

1416 昭和記念公園ゲート付近に停車した中継車の前に立つマナカ
1417 数百人以上の人間でごったがえしている

1418 ガヤ「とにかく、どーなってるんだ！ 秘密兵器の開発反対！ 異次元人って本当は何
1419 者なんだ！ とか、国や国連、自衛隊、防衛省にクレームの嵐」

先・マナカ「こちら昭和記念公園には、さきほど午前十時の官房長官の記者会見を受け、
1420 報道関係者が大挙として訪れています。また、ゲート付近ではネットを通じて情報を
1421 知った人々や複数の市民団体などが詰め寄り、一時騒然となる場面もありましたが、
1422 コヅカ防衛大臣が直接現れ、事態を収束させました。国連がアドレマイズ事件の際の
1423 技術を応用して開発した巨大ロボット『エデン』の存在が明らかになり、それが我が
1424 国の防衛相の管轄になっている状況から、わたしたちには想像もできない事態が迫っ
1425 ていることを知ってしまいました。未知なる異次元人ブルハトウに対して、いったい
1426 どのような対策が発表されるのか、午後一時からの総理のコメントに注目したいと重
1427 います」
1428

1429
1430 ○シーン46 オープニング

N 「アドレマイズの混沌が、人類の歴史に爪痕を残した惨事から、すでに十数年が
1431 経過した。しかし、我々は新たな驚異に怯えなければならなかったのだ。果たして救
1432 世主はどこにいるのか。それは誰にも答えることができなかった…」
1433

1434 主題歌 ver3.0 ワンコーラス 1分30秒
1435 アイキャッチ
1436

1437
1438 N 「エピソード・スリー ふしちよう作戦」
1439

1440 ○シーン47 前回のあらすじ

1441 N 「小笠原ホールから出現したブルハトウの操る巨人との戦闘で損傷したエデン。
1442 その存在は、日本《につぼん》国民ならず世界中に知れ渡ってしまう。そして、幸い
1443 にして無傷で救出されたものの、ダイバーに登録されて力を発揮できなかったミナミ
1444 は激しい自己嫌悪にさいなまれていた」
1445

1446 ○シーン48 エデン家・居間 ■時

1447 ソラはミナミのことが心配でそわそわしている
1448
1449 ソラ 「まったく、ミナミはなんで連絡よこさないかな。もう二日も経つのよ。電話も
1450 つながらないし。あれほどエマージェンシー・コールの使い方を教えたつてのに」
1451

1452 ソラの携帯がなる。表示は非通知
1453

1454 ソラ 「ミナミ！ 非通知？ でもここは出るべきよね」

携帯に出るソラ

ソラ 「もし？」

電話の男 「エダ・ソラさんですね」

ソラ 「どちら様ですか？」

電話の男 「国立・特別感染症・管理センターのタチバナと申します」

ソラ 「かんせんびょう、かんりせんたー、ですか？」

電話の男 「要点だけお話ししましょう。妹のミナミさんが国際指定のウイルスに感染している事が判明しました」

ソラ 「ウイルス？」

電話の男 「はい。致死率は高くはありませんが、乳幼児の場合に限って様々な後遺症を残すため、わたくしどもで保護させていただきます」

ソラ 「保護って…ミナミは元気なんですか？ 面会は？」

電話の男 「ご安心ください。妹さんは至って元気です。ですが状況だけに面会はご遠慮いただきます」

ソラ 「そんな…（これって新手の詐欺かも。検索してみるか）場所は、どこなんです？」

ソラは携帯を頭と肩で挟んでノートパソコンで検索する

電話の男 「誠に恐縮ですがお教えできません」

ソラ 「（国立特別感染症管理センター、たしかにあるわね。でも住所が非公開になっている。録音しなきゃ）」

ソラは携帯の通話録音スイッチを押す

ソラ 「いつになったら返してくれるんですか？」

電話の男 「体内での潜伏期間は半年ほどです。その後の検査で——」

ソラ 「半年も？ それまで連絡とれないなんて、おかしくないですか？」

電話の男 「すみません。規則なものですから」

ソラ 「規則って」

電話の男 「電話やメールも禁止されています。その分、生活環境には充実を期しております」

ソラ 「ちょっと、そんな大事な内容、この電話一本で済ますわけ？」

電話の男 「すみません。緊急を要するので」

ソラ 「それにしたって」

電話の男 「要件は以上です。必要があれば、こちらからご連絡を差し上げます。それでは失礼します」

電話がきれる

ソラ 「ちょっと。こういうのってあり？」

○シーン49 立川基地・コヅカの執務室

イスに座り机に向かうコヅカ。サンドイッチを食べている

その前に置かれた応接セット。ソファーに座るニシジマはカレーを食べている
ジュリエットは紅茶のみ

コヅカ 「まったく、横須賀はどんな警備をしているのだ」

ニシジマ 「米軍基地から抜け出すなんて、なかなかやりますな」

ジュリー 「でも、ミナミさんなしではエデンを動かせませんよ」

ニシジマ 「ロイスの話では、今のエデンを起動するには、二人のダイバーが揃ってないとイケないってことです。キタヤマくんがああ怪我じゃあ確かめようもない。もっとも、上下に分断されたままではねえ」

コヅカ 「どいつもこいつも肝心なときに役に立たん。税金の無駄遣いだと言われるわた

1511 しの身にもなってもらいたい」
1512 ニシジマ「で、ミナミくんの捜査。神奈川県警はなんだって拒否したんですか？」
1513 コヅカ「ブルハトウに関わる者は、第七特殊被疑者扱いで、警視庁管轄からは除外するんだそうだ」
1514 ニシジマ「君子危うきに近寄らず、つてことですか。この場合は君子つてのは適切じゃないか」
1517 ジュリー「ミスターコヅカのポジションなら、その方が都合が良いのではないですか？」
1518
1519 コヅカはオレンジジュースを一気に飲み干すと、
1520
1521 コヅカ「自衛隊員を人探しに回せるほど器用な組織にはなっておらん」
1522 ニシジマ「ようするに人手の問題です。日本にはアメリカのような秘密警察は存在しないんですよ。警察官僚出身大臣の立場がないですが」
1523
1524 コヅカ「(無然として)ふッ」
1525
1526 ジュリエット、ティーカップを机に置く
1527
1528 ジュリー「我が国に、そんなものはありません」
1529 ニシジマ「NSB《えぬ・えす・びー》があるじゃないですか？ 充分に秘密組織ですよ、あれは」
1530
1531 ジュリー「ゴシップサイトの観過ぎには要注意です」
1532 ニシジマ「あれはボクの活力源なんです」
1533 コヅカ「ともかく、ミナミくんの捜索はわたしの方でなんとかする。博士はロイスと協力してエデンの復旧を急いでくれ」
1534
1535 ニシジマ「あんな状態で、まだ戦おうつていんですか？」
1536 ジュリー「エデンの下半身は、元々、両腰についたバインダーにエネルギーを送るために、一度、大腿部《だいたいぶ》のバッテリーに蓄えてから出力する設計でした」
1537 ニシジマ「そんなの知ってますよ。なんだって、あんな設計にしたのか。MITの天才の考える事つてのは」
1538
1539 ジュリー「で、操縦席が二つできたことが幸いして、どうやら、上下別々に運用することができそうだというのがICMCの見解です」
1540
1541 ニシジマ「ちょっと待ってください。上下別々つて。いくらなんでも、そんなのはボクでも容認できませんよ」
1542
1543 ジュリー「上下に分断された状態ではエンジンの出力が半減、いや、もっと下がってしまう確率が高いでしょう。それでもわたくしたちは勝たねばいけないのです」
1544
1545 コヅカ「上下に別れていても、それぞれがRFキャノン撃てる。やつらに対抗できるのはエデンのみなのだ。満身創痍であっても使わぬわけにはいかんだろ」
1546
1547 ニシジマ「まあ、そうですけど。こういうとき、ゲームだったら隠しコマンドで『必殺技！』とか出来ちゃうんだけど、現実には厳しい…」
1548
1549
1550
1551 ○シーン50 横浜市・横須賀地区 某所の小さな公園
1552 蟬が鳴いている住宅地にある小さな公園で雑談をしている主婦たち
1553
1554 主婦A（ ）「小笠原の青い三脚つてのが、ブルなんとかって悪の組織のロボットつてことなんでしょ？」
1555
1556 主婦B（ ）「ブルハトウよ。で、昭和記念公園の地下で作ってた日本の秘密ロボットがエデン」
1557
1558 主婦C（ ）「違うでしょ。エデンを作ったのは国連の危機管理センターで、日本は小笠原にホールが出来てるつてことで、その運用権を譲ってもらったのよ」
1559
1560 主婦B（ ）「うちのユウくんの会社なんて、非常事態だからって、本社の仕事は大阪でやるんですって」
1561
1562 主婦C（ ）「当然よね。今じゃ東京は危険だわ。なんたつてエデンの基地があるんだから」
1563
1564 主婦A（ ）「じゃ、横須賀だつて同じでしょ。日曜のお祭りの準備とかしてて、ホントに大丈夫なのかしら」
1565
1566

主婦Aの子供3歳が主婦たちのところに駆け寄ってくる

子どもA（ ）「ママあ、お腹空いたあ〜」

主婦B（ ）「あら、ショウタロウくん。今日は素敵なたシャツ着てるわねえ」

主婦A（ ）「最近このロボットの柄ばかり欲しがるとよ。趣味悪い。旦那に似たのかしら」

主婦C（ ）「いやいや、良い選球眼してるわよ。これ、アドレマイズ事件で活躍したガルヴァイドってデモンドールよ」

主婦A（ ）「あら、そうなの？」

主婦C（ ）「ノリコさん、なんにも知らないのねえ」

主婦B（ ）「カズミさんの料理の知識には負けるわよねえ〜」

主婦C（ ）「グサツときたわ…」

○シーン51 横浜市・横須賀地区 公園わき

ミナミ、公園の水道で水を飲む

雑談する主婦たちの会話が聴こえているが耳に入らない。お腹が鳴る

ミナミ 「ふは〜。スマホ持って来ればお買いものできたのに…そこまで気が回らなかったよ。…もう少し歩こう。たぶん、まだそんなに遠くには離れてないはず。きつと怖いオジサンたちが連れ戻しにくるんだよ。わたしじゃダメなんだ。だから逃げなきゃ…でも、お腹すいたなあ…」

○シーン52 立川基地・医療センター

ベッドに横になっているキタヤマは様子を見に来た看護師にちよっかいを出す

看護師（ ）「キタヤマさん。お気分はどうですか？」

キタヤマ 「最高っす。看護師さんがデートの約束してくれたら、もっと最高かも」

看護師（ ）「あいにく、ここではそういうサービスやってないですよ」

キタヤマ 「冷たいなあ〜」
看護師（ ）「まだ腫《は》れがひかないですね。減圧症《げんあつしょう》にはなっていないハズなのに」

キタヤマ 「RFL《あーる・えふ・える》のせいでムクミが長引くって先生は言ってたけど、もっと良い治療法があるって知ってる？」

看護師（ ）「白衣の天使は、そう簡単にキスしたりしないって、ご存じでした？」

キタヤマ 「え？ ホント？ あれえ〜、おかしいなあ〜」

看護師（ ）「そんなことより、相方さん。早く見つかるの良いですね」

キタヤマ 「あ〜、それなら心配ないさ」

看護師（ ）「あら。どうしてですか？」
キタヤマ 「当たり前でしょ。あいつ、オレに惚れてるんだから」

看護師（ ）「…先生に言って、あなたに効くお薬、追加していただきます」

呆れてカーテンを閉める看護師

○シーン53 マリアナ海溝・底 ブルハトゥ基地

玉座に腰を下ろしたガナミアは、腕をくみ、足もくみ、満足げ

エデンが分断される映像を繰り返し見ているのだ。その前にかしづくボグライ

ガナミア 「もういちど見せろ」

ボグライ 「もう五〇回目ですが、ガナミア様」

ガナミア 「ギガンドールが落ちていく様は、何度見ても愉快ではないか」

ボグライ 「たしかに」

ガナミア 「もうこれであのギガンドールも現れないだろう。さすれば、ノエディーに我々が乗り込み、浄化の進み具合をこの皮膚で確認するというのも、ひとつの楽しみではと思うのだが、どうだ、ボグライ」

ボグライ 「ノエディーに我々が乗ってしまいますと、ダマスが不足する恐れがあるかと」
ガナミア 「ふッ！ 気に入らん。…この惑星には、およそ不必要な元素が多すぎるのだ。」

1623 最も浄化に不適切な世界。：アドレマイズのようにはいかんということか」

1624 ボグライ「そこを浄化しよう総督に命じられたガナミア様は、ツノが長くなるかと」

1625 ガナミア「あつはつはつは。よくわかっておるではないか、ボグライ」

1626 ボグライ「ははあ」

1627 ガナミア「よし。ノエディーで出る」

1628 ボグライ「いや、しかし…」

1629 ガナミア「この世界が浄化される前の景色を知っていれば、その後の喜びも更に大きな
1630 ろうというもの。すぐに出陣の儀を執り行う。お前は留守番だ」

1631 ボグライ「は、ははあ」

1632 ガナミア・ボグライ「すべては浄化のために！」

1633

1634 ○シーン54 立川基地・エデン格納庫

1635 格納庫に吊り下げられたエデンの上半身と下半身

1636 ニシジマはその修復に頭を抱えている。インカムでオペレータと連絡をとっていると、
1637 そこにやってくるジュリエット

1638

1639 ニシジマ「じゃ、次。十番回路を接続してください」

1640 オペA 「ルーフケイズ結界エンジン、ドライバー・ナンバーテン、コネクト」

1641

1642 うねりを上げるエデンの背中と腰部についたエンジン

1643

1644 オペD 「エデン・ワンの出力、七百から八五〇ルーストに上昇。ツアの出力、三百のま
1645 まです」

1646 ニシジマ「うーん。ワンとツアに別れたままじゃ、バッテリー駆動のツアには不利ってこ
1647 とか。悩ましい」

1648 ジュリー「あまり好ましい状況ではなさそうですね」

1649 ニシジマ「あ、本部長。ロイスは何か言っていましたか？」

1650 ジュリー「ドクターと話をしたいと言っています」

1651

1652 ジュリーはA4サイズくらいのタブレット端末をニシジマに見せる。画面にロイス

1653

1654 ニシジマ「それは珍しい。またキテレツな妙案でも授《さず》けてくれるのかな？」

1655 ロイス「君には朗報だと思うがね」

1656 ニシジマ「ほお。興味津々だけど、次はブルハトウには絶対必勝の作戦が必要なんだって
1657 こと、分かつての話だろうね」

1658 ロイス「上半身と下半身。エデン・ワン、ツアと呼ぶのかな？」

1659 ニシジマ「二機で運用しようってのに、正式に上半身と下半身って呼ぶなんて、役所の連
1660 中のセンスの悪さは何世紀も進歩してないって思ったから進言したんだよ」

1661 ロイス「それを、合体させる方法がある」

1662 ニシジマ「合体？ 燃えるキーワードを持ってきたね。しかし眉唾《まゆつば》だ。いつ、
1663 どこで、どんなふうに、だれが、どれくらいの力があれば良いのか。そして、なぜそ
1664 れができるのか。論理的に説明してよ」

1665 ロイス「簡単に言えば、前回はミナミの勇気が足りなかったのだ」

1666 ニシジマ「勇気？ 切り札が根性だなんてボクは認めないよ。それにミナミくんのような
1667 一高校生にまで、未知の敵と戦って勝利できるほどの高潔な精神が人類に浸透してい
1668 るなら、地球上のあらゆる困難はとくに解決されてる」

1669 ロイス「だからこそ、デモンコアがあるのだ」

1670

1671 *** 収録中断箇所 ***

1672

1673 ニシジマ「そうきたか。かねがね気になっていたんだけど、この際だから訊かせてもらお
1674 うじゃないか。十三年前、アドレマイズ事件のときにズーラが持っていたデモンコア

1675 はマーシヤラ皇国が奪取した。そして不可逆召喚《ふかぎやくしゅうかん》という不
1676 思議な術《じゆつ》を使って全ての召喚ホールを閉鎖。そうすることで異世界間の
1677 往来《おうらい》を防ごうという意図があったと聞いている。にもかかわらず、ブル
1678 ハトウが現れた。まあ、これは異次元のヤツらのトンデモ科学の仕業なのだから百歩

1679 譲って良ししよう。だが、ロイス。君は自称アドレマイズ人《じん》だ。デモンコ
1680 アをどうやって手に入れて、どのようにして異世界を行き来しているんだ？ そもそ
1681 も、なぜ？ だいたいデモンコアってなんなんだ？」

1682 ロイス 「そう興奮するな。当時の連合艦隊の記録にも残っているだろう？ 君たちはエ
1683 デンを製造するために、アドレマイズ人が残した対デモンドール用特殊弾頭ミサイル
1684 の設計図をもとにして疑似《ぎじ》デモンコアを作り出せたのだから、おのずとその
1685 正体も解明されるだろう」

1686 ニシジマ 「いま知りたいんだよ」

1687 ロイス 「デモンコアとは『生命を映し出す鏡。そこに良き心を向い合せれば、世界の混
1688 沌から解脱できる』。そういうものだ」

1689 ニシジマ 「メーナ皇女《おうじょ》の言葉そのままじゃないか。それでボクたち科学者は
1690 納得できないどころか、余計に混乱してるんだよ」

1691 ジュリー 「その『良き心』が、ミナミさんにある、ということですか？」

1692 ロイス 「ダイバーとして選ばれたのだ。そういうことだろう」

1693 ニシジマ 「では彼女が逃げ出したのは、デモンコアも筋書きを間違えたってことなのか？」

1694 ロイス 「どの世界でも、学者というものは計算できる未来しか信じようとしないう傾向が
1695 あるようだ。それでも、君はましな方だと思っていたがな」

1696 ニシジマ 「どういう意味だ」

1697 ロイス 「わたしたちはまだ負けたと決まったわけではない。ゆえに、分断されたエデン
1698 を合体させる。ただし、そのチャンスは一度だけだ」

1699 ジュリー 「それはいつです？」

1700 ロイス 「巨人の放つ光線を利用する」

1701 ニシジマ 「なるほど！ あの光線を触媒にして、エデン・ワンとツールのエンジン出力を引
1702 き上げる。その勢いでワンとツールの回線を連結させようって魂胆か」

1703 ロイス 「察しがいいな」

1704 ニシジマ 「ボクを誰だと思ってるんだい？ アドレマイズ研究の世界的権威、ニシジマ・
1705 サトルだよ」

1706 ロイス 「それでエデンは、バルヴァイドとして再びよみがえる」

1707 ジュリー・ニシジマ 「バル、ヴァイド？」

1708 ロイス 「君たち風に言うのなら『最強の神』という意味合いかな」

1709 ジュリー 「最強の神…ですか」

1710 ニシジマ 「いや、待てよ。巨人にあの光線をエデンに向かって撃たせるにしても、向こう
1711 の思うようにやられたら、こっちは殺されに行くようなもんだ。巨人を任意の位置で
1712 静止させる方法は…」

1713 ジュリー 「あの、わたしによいアイディアが…」

1714 ニシジマ 「おっと本部長。その先はボクが言いますよ。きっと同じことを思いついたんで
1715 しょうけどね」

1716 ロイス 「疑似デモンコアについて、少しでもカジっていれば思いつく方法だからな」

1717 ニシジマ 「イヒヒ。これはちょっと燃えてきたぞ！ ワセダさん、聞こえますか？」

1718 オペA 「どうぞ」

1719 ニシジマ 「今すぐ、文科省に連絡をとってください！ こりや、人類史だけでなく、ア
1720 ドレマイズにまで名前を残せるかもだぞ」

1721 ロイス 「フフフ…だらうな」

1722 舞台だったらそのまま暗転の感じ

1723 ○シーン55 横浜市・ベイブリッジ

1724 横浜ベイブリッジを走るニチアサテレビの中継車

1725 ホンマ 「局長直々のご指名とあれば、行かないわけにはイカンよなあ」

1726 先・マナカ 「ミナミさんのこと、喉まで出かかったけど、自分でもよく我慢できたと思う
1727 わ」

1728 ホンマ 「オレなんか自分の家族のこと考えたら、絶対に墓場まで持っていこうって思っ
1729 てんのに、さすがだね」

1730 先・マナカ 「でも横浜に行けって命令も、もしかしたら、政府からの指示なのかもって」

1734 ホンマ 「ありえるね」
1735 先・マナカ 「理由を教えてもらえないなんて変よ。エデンの秘密を知ってしまったとは言
1736 っても」

1737
1738 マナカの携帯にメール
1739

1740 先・マナカ 「コヅカ防衛大臣からだわ…。…そんな…」

1741 ホンマ 「なんだって？」

1742 先・マナカ 『横須賀基地からミナミくんが逃げ出した。確保してくれ。これは極秘の依
1743 頼だ。頼む。コヅカ』ですって」

1744 ホンマ 「なるほど」

1745 先・マナカ 「ベイブリッジに入った途端にこのメールってことは…」

1746 ホンマ 「あれ？ ナビが勝手に横横（横浜横須賀道路のこと）に入る経路になったよ」

1747 先・マナカ 「彼女がいそうな場所までご案内ってことか」

1748 ホンマ 「防衛省ってここまで出来るんだな」

1749 先・マナカ 「急ぎましょ。エデンは、ミナミさんがいないと動かせない。ようするに人類
1750 の危機ってやつよ」

1751 ホンマ 「了解だ！」

1752
1753 速度を上げる中継車
1754

1755 ○シーン56 横須賀市・某所 午後2時

1756 蟬が鳴く住宅街を速足で歩くミナミ。太鼓の音が聞こえてくる。時間的に不似合な音が
1757 気になって足を運んでみると子供たちが祭りの練習をしている
1758

1759 ミナミ 「暑いイ…お腹空いたな…スパーの試食コーナーなんて行ったらスグ通報さ
1760 れちゃうだろうし。でも、よく考えたら、わたし、どこに逃げればいいんだろう…」
1761 ミナミ 「太鼓の音？ お祭りかな？ でも、夏休みっていつでも平日だし、まだ二時ぐ
1762 らいだし。あ、でも屋台とか出れば、もしかして、たこ焼きくらいなら少し貰える
1763 かも」

1764 太鼓のお姉さん（ ） 「四年生チーム！ ほら！ 鐘と太鼓を合わせて！」

1765 ミナミ 「あれ？ れんしゅう、か…屋台は無さそう」

1766 太鼓の少年（歩川） 「お姉ちゃん、おもしろいカッコしてるね」

1767 ミナミ 「え？ まあ、ちよつと、いろいろ訳があつて…」

1768 太鼓の少年 「お姉ちゃんも観に来るでしょ」

1769 ミナミ 「え？」

1770 太鼓の少年 「お祭りだよ。今日の日曜日」

1771 ミナミ 「そんな場合じゃ…」 みんな、逃げないの？」

1772 太鼓の少年 「東京は避難してる人もいるみたいだけど、この辺は大丈夫だって先生が言っ
1773 てた」

1774 ミナミ 「そ、そう」

1775 太鼓の少年 「僕も去年は太鼓を叩いたんだ。でも、病氣しちゃったから、今年は観るだけ」

1776 ミナミ 「そうなんだ」

1777 太鼓の少年 「残念だけど、来年は進級してるし」

1778 ミナミ 「進級？」

1779 太鼓の少年 「お姉ちゃん何も知らないんだね。太鼓を叩けるのは小学生まで。僕は来年、
1780 中学生になっちゃうんだ」

1781 ミナミ 「そう、なんだ…」

1782 太鼓の少年 「でもいいんだ。来年は後輩たちに教えられるように病氣を治さなきゃ」

1783 ミナミ 「そう…」

1784 太鼓のお姉さん 「ほら、ここはもつとテンポよく！ タン・タン・タタタンって。そう、

1785 その呼吸！ それ忘れないで！」

1786 ミナミ 「呼吸…わたし、なにしてるんだろう…」

1787 太鼓の少年 「だから、来年のお祭りも期待しててね。今度のもだけど」

1788 ミナミ 「う…うん」

1789 太鼓の少年「約束だよ」

1790 ミナミ「わかった。『…そうだ、電話借りよう。ともかくお姉ちゃんに連絡しないと』

1791 ねえ、キミ。スマホかしてくれるかな？」

1792 太鼓の少年「いいけど。お姉ちゃん、持ってないんだ。珍しいね」

1793 ミナミ「うん、ちよっと、落としちゃったんだ」

1794 太鼓の少年「うわー、それは大変だね」

1795

1796 少年はポケットから携帯を取り出して

1797

1798 太鼓の少年「はい」

1799 ミナミ「ありがと」

1800

1801 ○シーン57 ミナミとソラのスカイプ通話・埼玉県エデン宅

1802 居間のテーブルに携帯を置いて、それを正座して鳴るのを待っているソラ

1803

1804 ソラ「父さんも母さんも、こんなときに限ってブラジル巡業で連絡つかないとか、マ

1805 ジ終わってるわ…」

1806

1807 ソラの携帯が鳴る

1808

1809 ソラ「IP通話？ ミナミのIDからだわ？ でも、ネットは禁止されてるんじゃないや？

1810 でも出ない訳にはいかないわよね」

1811

1812 ソラはボタンをクリックして通話可能にする

1813

1814 ミナミ「お姉ちゃん？」

1815 ソラ「あんた、なんともないの？ 熱とかお腹いたいとか」

1816 ミナミ「え？ どうして？ たしかにお腹は空いたけど」

1817 ソラ「は？ っていうか、太鼓の音とか。あんた今、どこにいるのよ？」

1818 ミナミ「場所？ あそうか。ねえ、キミ。ここの住所わかる？」

1819 ソラ「ちよっと、ちよっと、どういうことよ。さっきの男なんなのよ」

1820 太鼓の少年「住所も知らないの？ 横須賀市、緑丘《みどりおか》区、諏訪《すわ》だよ」

1821 ミナミ「ありがとね。横須賀のみどー」

1822 ソラ「聴こえたわよ！ そこが感染病管理センターってこと？ それにしても、その

1823 ミナミ「下手な太鼓なんなのよ。うるさくて聴こえないわよ！」

1824 ミナミ「かんせんびよう？」

1825 ソラ「ともかく、ちよっと迎えに行くから、そこに居なさいよ！ 諏訪までだったら、

1826 1時間半くらいでいけるから」

1827 ミナミ「あ、ダメ。わ、わたし、いけないと…」

1828 ソラ「なんですって？」

1829 ミナミ「わたし、行かなきゃいけないところがあるの」

1830 ソラ「何言ってるのよ。夏休みの登校日はもうないって言ってたでしょ。図書館でも

1831 行くの？ だいたい、あんた横須賀で何やってんのよ！」

1832

1833 ○シーン58 立川基地・指令室

1834 壁のスクリーンに地図が表示され、赤い点滅がミナミの居場所を示している

1835

1836 オペA「ダイバーAのネットへのログインを確認。発信エリア、特定。神奈川県横須賀

1837 市・緑丘区、諏訪ブロック、マル・マル・ナナ。ファイアウォールを越えられますが、

1838 通話内容は記録しますか？」

1839 コヅカ「必要ない。目と鼻の先か。現場の勘もまだ衰えてはいなかったか」

1840

1841 コヅカは、言いながらマナカの携帯に電話する

1842

1843 先・マナカ「マナカです」

1844 コヅカ「マナカさん、ミナミくんが見つかった。そこから諏訪公園に向かってくれ。G

1845 PSで誘導する」
1846 先・マナカ「諏訪公園なら五分あれば行けます！」
1847 コツカ「わかっている。頼むぞ」
1848

1849 ○シーン59 横須賀市・諏訪公園
1850 太鼓の音が大きくなるので、声が大きくなるミナミ
1851

1852 ミナミ「わたし、行くの！」
1853 ソラ「どこに？」
1854 ミナミ「ともかく、心配しないで！」
1855 ソラ「ちょっとミナミ、待ちなさいよ！」
1856

1857 ミナミ、通話を切り、携帯を少年に渡す
1858

1859 ミナミ「スマホ、ありがとう」
1860 太鼓の少年「これから、どっか行くの？」
1861 ミナミ「うん。ちよつとね」
1862 太鼓の少年「気を付けてね。お祭り、来てよね」
1863 ミナミ「わかった」
1864 太鼓の少年「じゃあね」
1865 ミナミ「じゃあね」
1866

1867 走り出すミナミ。太鼓の音が小さくなり、蟬の音が大きくなる
1868

1869 ミナミ「とにかく戻らなきゃ」
1870

1871 ○シーン60 横須賀市・諏訪公園・外
1872 諏訪公園脇の国道を走るニチアサテレビ中継車
1873 マナカは大通りの反対側を走るミナミをみつける
1874

1875 先・マナカ「停めて！ 道路の向こう側、走ってるのミナミさんだわ！ ミナミさん！」
1876 ミナミ「え？ マナカさん？」
1877

1878 横断歩道の信号機が青になる。メロディは、とおりやんせ。渡るのをためらうミナミ
1879

1880 先・マナカ「ミナミさん。ちよつと待ってえッ！」
1881 ミナミ「この信号を渡ったら、もう、戻れない。でも…」
1882

1883 ミナミが渡ると横断歩道が赤になる。ミナミはマナカの元に走り寄る
1884

1885 先・マナカ「ミナミさん…」
1886 ミナミ「あの…」
1887

1888 先・マナカ「いいの。わかるわ。誰だって怖いもの。それが普通よ」
1889 ミナミ「わたしを、立川まで連れて行ってください」
1890

1891 先・マナカ「え？ 今、なんて？」
1892 ミナミ「わたしを立川基地まで運んでください」
1893

1894 ○シーン61 立川基地・エデン格納庫
1895 種子島から緊急輸送された、ふしちようが天井ゲートから搬入される
1896 それを見上げるニシジマとジュリエット
1897

1898 ニシジマ「おお！ さすが本部長。こういうの運ばせたら米軍は天下一品ですね」
1899 ジュリー「これでアンダーソン駐日大使には借りを作ってしまいました。大学のコネクシ
1900 ョンを使うのはわたくしのポリシーに反するのですが：種子島から立川までの輸送代
は、ドクターのサラリーから天引きさせていただきます」
ニシジマ「けっこう、けっこう、大《だい》けっこう！ 特急割増料金でもノープロブレ

1901 ム！ アメリカバンザイ！ 見てくださいよ。この不死鳥のパーツを使って巨人を
1902 コテンパンにやつつけてやりますから！」
1903

1904 ○シーン62 立川基地・廊下
1905 ミナミが脱走から立川基地に戻ってきて、キタヤマと廊下を歩いている
1906 ミナミ、うつむきながら歩く。先に行くキタヤマ
1907

1908 キタムラ「見直したぜ」
1909 ミナミ「逃げ出したのに？」
1910 キタムラ「シャワー室に置いてあったバスローブだけで横須賀基地を抜け出して、真昼間
1911 《まっぴるま》の住宅街で洗濯物を盗んで逃走。しかも、それなりに変装してたって
1912 聴いたぜ。完全に大悪党だな」
1913 ミナミ「必死だった、んです」

1914 キタムラ「必死になればなんでも出来ちゃう、ってことだな」
1915 ミナミ「それより、怪我。大丈夫なんですか？」
1916 キタムラ「この通り。ピンピンしてるさ」

1917 ミナミ「でも、ギブスしてるし」
1918 キタヤマ「心配してくれちゃうわけ？ やっぱり惚れたな。オレ様に」
1919 ミナミ「そんなことありません！」
1920

1921 キタヤマ、止まって振り向く。ハッと止まるミナミ
1922

1923 キタムラ「で、乗ってくれちゃうわけでしょ。オレと」
1924 ミナミ「そういうことに、なります、けど…」

1925 キタムラ「よし。じゃあ、とりあえず夕飯食おうぜ」
1926

1927 キタムラ、踵をかえし歩き出す
1928 ミナミは、謝ろうとする気持ちと、まだ決意が揺らいでいる間で迷っている
1929

1930 ミナミ「あの…」
1931

1932 キタムラ、一旦、立ち止まり振り返る
1933

1934 キタムラ「まだなんか言い訳あるの？ オレ、腹減ったんだけど」
1935

1936 速足で歩き出すキタムラ
1937

1938 ミナミ「あ、はい」
1939

1940 キタムラのあとを追うミナミ
1941

1942 キタヤマ、頭をかかえながらガニマタで歩きながらつぶやく
1943

1943 ニシジマから合体の際の認証コードを考えておけと言われている
1944

1944 キタムラ「何が良いかなあ。なんか、こうカッコいいのがいいよなあ」
1945

1946 ○シーン63 立川基地・指令室
1947

1948 作戦内容を表示した壁のスクリーンを前に椅子に座る、コヅカ、ジュリエット、キタヤ
1949 マ、ミナミ、特殊服を着たロイス。そして得意げに説明をするニシジマ
1950

1950 ニシジマ「これが、名付けて『ふしちよう作戦』であります！」
1951

1951 キタヤマ「不死鳥を使うから不死鳥作戦って、なんか安直すぎじゃねーですか、ハカセ」
1952

1952 ニシジマ「シンプル・イズ・ベスト！ こういうのは覚えやすい方がいいの。援護してく
1953 れる自衛隊はもとより、第七艦隊にも受けがいいんだよ」
1954

1954 コヅカ「巨人を抑え込む仕組みはわかった。で、その巨人をどうやって引っ張り出す？」
1955

1955 ロイス「ブルハトウは明確にエデンに敵意を持っている。こちらからホールに向かって
1956 いけば、おいそれと出てくるに違いない」

1957 ジュリー「本当にナンの餌も捲かずに寄ってくるのでしょうか」
 1958 ニシジマ「ブルハトウにとってエデンこそが究極のランチってやつですよ」
 1959 ロイス「彼らは戦闘意識が強い種族だ。そしてプライドも高い。エデン・ワンとツーに
 1960 別れたエデンが攻め入ってきたとわかれれば、黙ってはいられない」
 1961 コヅカ「問題は三つ。ひとつは、エデン・ワンとツーに分離した状態では、ワンのダイ
 1962 バーであるミナミくんの飛行をキタヤマ主任がサポートできない」
 1963 ミナミ「す、スミマセン…」
 1964 コヅカ「二つ目は、巨人を抑え込むまでの時間だ。ツーはバッテリー駆動のため合体す
 1965 るまではワン側からのエネルギー供給ラインが確保できない」
 1966 ジュリー「スカーレット・ユニットは使えませんか？」
 1967 コヅカ「本来ならそうしたいところだが空中給電をするために巡航速度をマッハ0.8
 1968 まで減速するのは本末転倒。稼働時間が一二〇分程度を想定されるツーを活かすには、
 1969 巨人の光線をそれまでに浴びなければならぬ。そして三つ目は、合体後、巨人の光
 1970 線を利用して合体したエデン。つまりバルヴァイドのコントロールは、想定されるケー
 1971 スから総合的に判断するに、ミナミくんに委ねられるということだ。巨人をキャッチ
 1972 していられる時間はわずか一八〇秒。これはミナミくんに決意をしてもらう他はない」
 1973 キタヤマ「大臣、心配ねーっすよ！ エデン・ツーはオレが単独で操縦できるんだし、不
 1974 死鳥だってオレが運ぶ。合体は、間に合いそうなタイミングでオレがエデン・ワン側
 1975 にドリヤーって突っ込めば済む話です。合体したあとだって、このオレが万全のサポー
 1976 トをしますって」
 1977 ニシジマ「巨人は、前回の行動パターンからして横倒しになった姿勢でいることに不都合
 1978 が生じるのだと思います。ですから、バルヴァイドになった後は、巨人を横倒しに
 1979 して、そこでキャノンを一発ブチかませばこちらの大勝利ってわけです。不死鳥の操
 1980 作は、このニシジマにお任せください！」
 1981 キタヤマ「よ！ さすがシューティングゲーム大会の世界チャンプ！」
 1982 ニシジマ「五連覇したあとにここに呼ばれて記録が伸ばせなかったのは残念だが、こっち
 1983 の方がやりがいがある」
 1984 コヅカ「それはもう聞き飽きた」
 1985 隣にいるジュリエットにささやくミナミ
 1986 ミナミ「博士もゲームやるんですね…わたしやらないんで不安になります…」
 1987 ジュリー「大丈夫。ミナミさんはデモンコアに選ばれたの者なのですから」
 1988 ミナミ「わたしを選んだ…」
 1989 キタヤマ「だから博士がきちんと不死鳥を動かしてくれりゃいいんす。ミナミはそれまで、
 1990 普通にまっすぐトビヤあいいんだ。な、ミナミ」
 1991 立ち上がるミナミ
 1992 ミナミ「あ、はい。ガンバリマス」
 1993 ロイス「バルヴァイドになれば、ルーフケイズ結界のチカラが更に増大され、想像を超
 1994 える威力を持つことになる。その力でブルハトウを殲滅できるだろう」
 1995 コヅカ「ロイス殿の言葉にこれまで偽りがなかったように、それが事実ならば、我々は
 1996 人類史上で最も強力な兵器を手になることになる」
 1997 ジュリー「ブルハトウの本拠地を叩いたのち、バルヴァイドは再びICMCの元で管理さ
 1998 れる事が決定しました。ですが、まずは、不死鳥作戦の成功を祈ります」
 1999 ○シーン64 マリアナ海溝・底 ブルハトウ基地
 2000 測定器の示す値の不可思議さに疑念を持つボグライ
 2001 それを気にしないガナミア
 2002 ボグライ「なんだ、この波動は？ ダマスの変換効率が下がっているが…」
 2003 ガナミア「どうした、ボグライ。なぜ出撃させん！」
 2004 ボグライ「大気圏中のルーフケイズ結界の濃度が揺らいでいるのです。何か良からぬ兆候
 2005 なのではと」
 2006 ガナミア「浄化の進んでいない世界には、ままあること。気にするな。出すぞ」

2013 ボグライ「ははあ」
2014 ガナミア・ボグライ「すべては浄化のために」
2015

2016 ○シーン65 立川基地・指令室
2017 レーダーにホールの反応をキャッチし、いっきに緊張感が高まる。ロイスも防護服を着
2018 て、指令室にいる
2019

2020 オペC 「小笠原ホールに時空振動発生」
2021 コヅカ 「こちらの取り越し苦労だったというわけか」
2022 ジュリー 「ミナミさん、大丈夫。あなたなら、できるわ」
2023 ミナミ 「はい」
2024 コヅカ 「よし、エデン・ワン、ツー、出撃だ」
2025 キタヤマ 「了解！ いくぞ、ミナミ！」
2026 ミナミ 「がんばります！」
2027

2028 指令室を駆け出していくキタヤマ、ミナミ
2029

2030 オペA 「監視衛星からの映像です！」
2031 オペC 「時空振動率、七〇、八五、九八、一〇〇」
2032 ニシジマ 「巨人め、また逆さまに出てきたな」
2033 オペB 「巨人、姿勢を反転しました」
2034 コヅカ 「今度はイエローか」
2035 ニシジマ 「でも、前回と同じ機体ですよ」
2036 コヅカ 「なぜわかる？」
2037 ニシジマ 「左肩をRFキャンノンがかすった跡が残ってる。ということは、やつらはメンテ
2038 ナンスには神経質じゃない。または損傷が小さいパーツは交換しない。もしくはでき
2039 ない。つまりパーツの補充体制が思ったより万全じゃないのかも」
2040 コヅカ 「では、今回は何が目的で出てきたのだ？」
2041 ロイス 「観光旅行かもな。エデンを倒して気をよくしているのかもしれん」
2042 ジュリー 「だいいいのですが」
2043

2044 ○シーン66 エデン・発進シーケンス
2045 オペA 「エデン・ワン、ツー。収納容器《しゅうのうのうようき》、減圧《げんあつ》開始」
2046 オペB 「拘束《こうそく》用アンカーボルト、ロック解除」
2047 オペD 「ダイバーとのシンクロシステム起動」
2048 キタヤマ 「シンクロシステム、起動。ツーはキタヤマ・リョウ！」
2049 ミナミ 「エデン・ワンはエダ・ミナミです！」
2050 オペA 「ダイバーの声紋照合《せいもんしょうごう》およびバイタルサイン確認」
2051 オペD 「コックピット内へのRFL《あーる・えふ・える》充填《じゅうてん》完了」
2052 キタヤマ 「ミナミ、安心しろ！ お前は俺が必ず守る」
2053 ミナミ 「わかってます。…だからマニユルも拡大コピーしてもらったんです」
2054 キタヤマ 「その意気だ！」
2055 オペA 「エデン・ワン、ツー、両機のルーフケイズ・ドライブ、接続。エンジン出力上
2056 昇。アイドリングから七〇パーセントまで上昇」
2057 コヅカ 「博士、不死鳥の準備はいいな」
2058 ニシジマ 「完璧。ペキペキですよ！」
2059 キタヤマ 「バッチリ現場まで運びますよ！」
2060 オペD 「フィルター展開。最大効果定数《さいだいきこうかていすう》、エデン・ワンは
2061 九百。ツーは五百ルースト」
2062 ジュリー 「ツーはやはり出力が上がりませんね」
2063 キタヤマ 「上級者には常にハンデがつきものでしょ！」
2064 オペC 「巨人は蛇行して本州に接近中。進路の延長線上は…東京湾です。誤差、コンマ
2065 三」
2066 コヅカ 「気合入れていけよ！ エデン・ワン、ツー、リフトアップ」
2067
2068 ○シーン67 昭和記念公園・外

エデンの発進を中継するマナカ

先・マナカ「いま、昭和記念公園から二機に分離された状態のエデンが飛び立ちました。二番機には種子島から輸送された不死鳥を搭載した立方体のカプセルが搭載されています。小笠原ではホールが発生し、ブルハトウの巨人が出現した模様です。これより、わたしたちも、遠隔操縦の移動カメラを使って中継を続けます！」

○シーン68 巨人、操縦席

海上をスレスレに飛ぶ巨人。移動速度はマッハ4

巨人が飛び去った後に衝撃波で波が立ちあがり、その軌跡に虹が続く

ガナミア「風を感じることが出来ないのはもどかしいが、それもあと少しの辛抱」

ボグライ「ガナミア様、ご連絡が」

ガナミア「どうした」

ボグライ「ギガンドールの反応にございます」

ガナミア「ほお。お前もたまには冗談を言うようになったのか」

ボグライ「いえ、まことの事にございます」

ガナミア「なんだと？」

ボグライ「値は弱くはなっていますが、反応が二つ確認できております」

ガナミア「ギガンドールが二体だと！ この世界の人間は、一度に二体のギガンドールを操れるのか？」

ボグライ「こちらに向かっておりますゆえ、ガナミア様と、もう数デメンカで接触いたします」

ガナミア「面白い。負けるとわかっていながらあがく輩を叩きのめすのは総督の教えに反するが、向かってくる方が悪いのだ。どの道、浄化の際には朽ち果てるサダメ。チリよりも細かく粉碎してくれる」

○シーン69 立川基地・指令室 午前一一時三〇分

巨人が東京に向かってくる。移動速度はマッハ4

オペA「巨人の移動速度、マッハ四」

コヅカ「速いな」

オペB「巨人が蛇行をやめて直進になりました」

ニシジマ「こちらが動いたことに気付いたのかもしれない」

オペC「エデン・フライトと巨人のコンタクト予想はヒトヒトサンマル」

ジュリー「本州に近すぎます」

コヅカ「第三管区航行警報の対応状況は二分おきに短縮するよう海運局に通達」

オペB「了解」

オペA「第二アクアラインは防潮堤の高さを五〇メートルに設定したと国交省から通達あり」

ニシジマ「キタヤマくん、巨人を本土に近づけるなよ。君の大事な女の子たちが被害をこうむることになる」

キタヤマ「巨人が速度をあげてくれたおかげで、こっちのチャンスが増えたってことでしょ！ 好きにはさせませんって」

ニシジマ「そういうことだ」

ロイス「フツツ…ますます都合だ。コヅカ。わたしは外に出ても構わんか？」

ジュリー「フェーズワンでは基地の外に出られない規則です」

ロイス「デモンコアがそうしろと告げているのだ」

コヅカ「いいでしょう。だが防護服には直射日光を遮るバイザーを付けていない。ロイス殿の目には眩しすぎるかもしれませんぞ」

ロイス「ジュリエットのサングラスを借りよう。そのためのモノなのだろう？」

ジュリー「わかりました。エデンの状況は左手のコンソールでモニターしてください」

ジュリエットは胸のポケットからサングラスを出してロイスに渡す

ロイス「ありがとう」

2125	
2126	指令室を出ていくロイス。自動ドアが閉まる
2127	
2128	ニシジマ「いま、ありがとう、つて言ったよね？」
2129	
2130	○シーン70 房総半島と八丈島の間ぐらいの海域
2131	空中で接触するエデン編隊と巨人
2132	
2133	キタヤマ「くるぞ、ミナミ！」
2134	ミナミ「はい」
2135	ミナミ「あ、オカリナさんが黄色から青になった」
2136	キタヤマ「オカリナさん？」
2137	ミナミ「だって、オカリナみたいでしょ」
2138	キタヤマ「たしかに」
2139	コヅカ「巨人の色が青に戻ったぞ」
2140	ニシジマ「絶対にチュパカブラと一緒にんだよ、あの装甲は」
2141	オペB「第四格納庫でアラーム発生。あら？ 復旧しました」
2142	コヅカ「この戦いが終わったら死ぬほど点検させてやる」
2143	ガナミア「フフフ。ハハハ。ハッハッハッハ。二体なのではない。分断されて、つな
2144	ぐことが出来なかったただけなのだ。ボグライ！ お前にこのくだらない姿を見せたか
2145	ったぞ」
2146	ボグライ「ですが、お気を付け下さい。どちらか一方の反応が徐々に増大しております」
2147	ガナミア「ならば、撃ち落とすまで」
2148	オペA「巨人の腕にエネルギーが集中しています」
2149	キタヤマ「早くもチャンス到来！」
2150	コヅカ「不死鳥、展開しろ！」
2151	ニシジマ「お任せタイム突入！」
2152	
2153	○シーン70・4 エピソード3・ラスト〜次回予告
2154	ED主題歌 1分30秒
2155	次回予告用BGM
2156	
2157	オペB「わたしの母校がメインで開発したエデン。すごい活躍で嬉しいわあ〜」
2158	オペC「タミコさんも鼻が高いですね。まあ、ボクは所詮、ダイゲイのオチケンですけ
2159	どね」
2160	オペB「アオサワくんの気象情報の報告があつてのことよ」
2161	オペD「さすが、褒め殺しのオウジ・タミコ」
2162	オペA「こら、ノリマサ。茶化すんじゃない」
2163	オペD「ワセダチーフは知らないんですよ。タミコさんの怖さを」
2164	オペB「それ、どういうことよ」
2165	オペD「言ってもいいんですか、あのこと」
2166	コヅカ「こら！ お前たち！ これが最終話の予告だと分かっているのか！」
2167	N「次回、超鬼兵ガルヴアイド エデン・ダイバー。エピソード・フォー。『流星
2168	になった少女』
2169	ミナミ「(悲壮な決意で) みなさん、ありがとうございました！」
2170	
2171	○シーン70・5 エピソード4・オープニング
2172	N「アドレマイズの混沌が、人類の歴史に爪痕を残した惨事から、すでに十数年が
2173	経過した。しかし、我々は新たな驚異に怯えなければならなかったのだ。果たして救
2174	世主はどこにいるのか。それは誰にも答えることができなかった…」
2175	
2176	主題歌 ver4・0 ワンコーラス 1分30秒
2177	アイキヤッチ
2178	
2179	N「エピソード・フォー 流星になった少女」
2180	

2181 前回のあらすじ

2182
2183 N 「横須賀基地から逃亡したミナミは、少年たちが週末に開催される祭りの練習を
2184 する姿を自分に映し、再びエデンに乗る決意を固めた。しかし、エデンは巨人の攻撃
2185 によって上下に分断されたままの出撃をするしかなかった。そして、今、まさに、エ
2186 デンがよみがえろうとしていた」

2187
2188 ○シーン71 エデン合体
2189 先・マナカ 「これは五〇キロ離れた場所からの超望遠カメラでとらえた映像です。ラジオ
2190 でも同時中継しています。今、不死鳥が入った立方体のカプセルが、エデン二番機か
2191 ら切り離されました」

2192
2193 先・マナカ 「立方体がピラミッドのような三角錐に分離して、空中を移動しはじめました」
2194 ガナミア 「塵となれ、出来そこないども！」

2195 ジュリー 「撃って来ます！」

2196 ニシジマ 「待ってました！」

2197 ガナミア 「消えろ！ ギガンドル！」

2198
2199 巨人が光線を発射！

2200
2201 ミナミ・キタヤマ 「ハカセ！」

2202 ニシジマ 「ほいきた！」

2203
2204 ニシジマがコンソールに繋がったゲーム操作器のボタンを押す

2205
2206 先・マナカ 「三角錐が巨人を両側から挟みこむように停止しました」

2207 ニシジマ 「チェックメイト！」

2208 先・マナカ 「三角錐からオーロラのような光線が巨人に向かって照射されています」

2209 ガナミア 「なんだ？ ノエディーが動かんぞ。ボグライ、どうしたことだ！」

2210 ボグライ 「まさか、アドレマイズの」

2211 ニシジマ 「見たか！ これぞ純日本製のデモンフォールドだ！」

2212 オペA 「フォールド確認。巨人との相対速度ゼロ。成功です」

2213 先・マナカ 「巨人が三角錐に挟まれたまま身動きしません。いや、ちょっとずつ方向を変
2214 えているようです。巨人は横倒しになり、二機のエデンは巨人の発射した光線に向か
2215 って行きます！」

2216 ガナミア 「なんだと！ ノエディーの操縦を乗っ取られたのか？」

2217 ニシジマ 「空に向かって撃たせれば、どこにもあたるまい！」

2218 コヅカ 「いまだ。カーテン展開！」

2219 先・マナカ 「一番機、二番機の両方からパラボラ・アンテナがせり出しました！」

2220 キタヤマ 「いくぜ、ミナミ！」

2221 ミナミ 「はい！」

2222 オペD 「合体キーワードをどうぞ！」

2223 キタヤマ 「ワンフォア・オール！」

2224 ミナミ 「オール・フォアワン！」

2225 オペA 「エデン、合体プロトコル、スタート！」

2226 オペB 「衛星バックアップシステム、良好」

2227
2228 ○シーン72 バルヴァイド誕生！

2229 エデン・ワン、ツーが巨人の光線を受けながら接近する

2230
2231 ガナミア 「こちらの粒子を吸収して再び一体化しようというのか！ ええいッ！」

2232 ボグライ 「ガナミア様いけません。ギガンドルにチカラを与えるだけと思われまず！」

2233 ガナミア 「うるさい！ わかっておる！」

2234 ニシジマ 「おっと、こっちの作戦に気付いたか。でも、もう遅かりし！」

2235 キタヤマ 「そのまま真っ直ぐ飛んで！」

2236 ミナミ 「はい！」

2237 オペD 「エデン・ワン、ツールのエンジン出力上昇中」
2238 キタヤマ 「よし！ 合体マーカー、軸合わせ成功。後ろからガツンと行くぜ！ そしたら
2239 お前さんの出番だ」
2240 ミナミ 「わかってます！」
2241
2242 エデン、ドッキング！
2243
2244 先・マナカ 「エデンがドッキングします。上半身と下半身に別れて飛行していた二機が、
2245 ドッキングして人の形になりました！」
2246 ミナミ・キタヤマ 「合体成功！ 超鬼兵バルヴァイド、降臨！」
2247
2248 ○シーン73 デモンアロー出現
2249 バルヴァイドの右手が発光する
2250
2251 ジュリー 「バルヴァイドの右手が！」
2252 オペD 「バルヴァイド、エンジン出力、五千ルースト」
2253 コヅカ 「あれが、新しいチカラ」
2254 ロイス 「そう。あれこそ、わたしが求めたチカラ。デモンアローを導き寄せたバルヴァ
2255 イドの姿」
2256 ニシジマ 「デモンアロー…」
2257 キタヤマ 「なんか右腕に弓みたいのが出て来ちゃいましたけど、これ使えるんすか？」
2258 ミナミ 「大丈夫です！ わたし弓道部ですから！」
2259 キタヤマ 「了解！ リラックスしていけよ、補欠さん！」
2260 ミナミ 「今はわたしだけしか射位《しやい》に立てないんです！」
2261 ガナミア 「おい！ ボグライ！ なんとかしろ！」
2262 ボグライ 「そう言われましても」
2263 先・マナカ 「三角錐が完全に巨人を固定しています」
2264 ミナミ 「よし！ まずほ」
2265 コヅカ 「おい、早く撃てよ！」
2266 キタヤマ 「足踏《あしぶ》みに入る前には礼をしないと」
2267 キタヤマ 「そんな場合かよ」
2268
2269 ミナミ、大きく深呼吸して息を吸う
2270
2271 キタヤマ 「なにやってんだ！」
2272 ミナミ 「的との間合いを測ってるんです！」
2273 オペD 「巨人との距離、二、六キロメートル」
2274 ミナミ 「そういう問題じゃないんです！」
2275
2276 ソラの言葉・回想
2277
2278 ソラ 「こないだは晴れ着まで買ってあげたつてのに、一本も刺さらないんじゃ必要な
2279 かったわね」
2280
2281 コヅカ 「ミナミくんは何をしているんだ！」
2282
2283 ミナミ、弓道の呼吸を整えるため、射場でのリズムを思い出し、集中するために正射必
2284 中を何度も唱える
2285
2286 ミナミ 「遠的《とおまと》だけど…、正射必中《せいしやひっちゅう》、正射必中、正
2287 射必中」
2288 ニシジマ 「なるほど。ミナミくんはまさに弓を引こうとしているのか」
2289 ジュリー 「しかし、デモンフォールドのタイムリミットが」
2290 キタヤマ 「ミナミ、チャンスを逃す気か！」
2291 ミナミ 「流鏑馬《やぶさめ》よりは簡単なハズ。集中しなさい、ミナミ」
2292 キタヤマ 「撃て！」

2293 ミナミ 「引きます！」
2294
2295 ○シーン74 デモンアロー命中
2296 デモンアロー発射！
2297
2298 先・マナカ「合体したエデンが、光の矢のようなものを発射しました！」
2299 キタヤマ「アタレ！」
2300
2301 ガナミア、嘲るように不敵に笑う
2302
2303 ガナミア「フッ…」
2304 キタヤマ「ダメだ。弾道がそれてる！」
2305
2306 光の矢が軌道を変えて巨人に向かう
2307
2308 先・マナカ「エデンが放った光の矢が空中で急に角度を変えて巨人に向かって行きます！」
2309 ガナミア「なんだと！」
2310 ニシジマ「スネルの法則だ！ 巨人のバリアがプリズムの役目をしたんだ！」
2311
2312 巨人の胸部を貫通する光の矢
2313
2314 キタヤマ「よっしゃー！」
2315 ガナミア「ありえん！ ダマスを突き破ったというのか」
2316 先・マナカ「エデンの放った光の矢が、巨人の胸部を貫通しました！」
2317 ニシジマ「デモンアローはようるすにクアンタム・トンネリングなんだ！」
2318
2319 巨人が凍りだす
2320
2321 ガナミア「なに！ 機体が氷結しているだど！」
2322 ジュリー「巨人の様子が変です」
2323 オペC 「巨人周辺の気温が急激に低下していきます」
2324 ニシジマ「量子トンネル効果だけじゃない。局地的なナノケルビン領域を作り出して巨人
2325 を粉碎する気だ。スゴイ！」
2326 コヅカ「どういうことだ？」
2327 ニシジマ「絶対零度ですよ。マイナス二七三度。熱力学第三法則を破る瞬間を見れるなん
2328 っ！」
2329 ミナミ 「オカリナさんの色が変わってく」
2330 キタヤマ「冷やしてやってるのに赤くなるか」
2331 ニシジマ「効いている証拠だ。見ていてください。巨人が粉々に砕け散るぞ！」
2332 ガナミア「ギガンドールめ、もう容赦はしない」
2333 先・マナカ「巨人の色が黄色から青、そして赤に変化しました」
2334
2335 巨人、絶対零度で原子レベルで氷結し、実体を維持できなくなり自己崩壊する
2336
2337 ○シーン75 バルヴァイドが勝利したように見えたが
2338 粉々になって風に流される巨人のボディの欠片を見て安堵するミナミたち
2339
2340 ミナミ 「やった！」
2341 キタヤマ「よくやった、ミナミ」
2342 先・マナカ「巨人が砕け散りました！ エデンの放った光の矢で巨人が粉々になりました。
2343 キラキラと輝く粒になって舞っています」
2344 コヅカ 「よし、やったな」
2345 オペA 「巨人のいたポイントに十トンの質量を確認」
2346 コヅカ 「なに？」
2347 ジュリー「なんですか、あれは？」
2348

ガナミアのいる操縦席は強固なダマスで守られており浮いている

先・マナカ「巨人のいた場所に、銀色に輝く球体が浮いています。対象物がいないため正確にはわかりませんが、かなり小さなものです」
ニシジマ「まさか…絶対零度のハズなのに。どうして」
オペC「直径三メートルの球体です。分子構造は不明」
ガナミア「もう、チマチマとやるのはやめだ！」
ボグライ「ガナミア様、しかし…」
ガナミア「うるさい！」

ガナミアの乗るコックピットボックスが発光する

ミナミ「なにか光りました」
キタヤマ「ぼっとしてないで後退しろ！」
ミナミ「え？」
オペC「球体を中心に重力場のゆがみが発生」
オペD「ルーフケイズ・フィルターと干渉しています」
ガナミア「最高の死に場所を用意してやる。ッテーイッ！」
コックピットボックスから光線が発射される

ミナミ「よけきれません！」
キタヤマ「くそッ！」
コヅカ「なんだあの光は」
オペA「測定不可能です」

バルヴァイドが光線を受けた一帯が乱反射で眩しくなる
光が消えるとバルヴァイドとコックピットボックス、不死鳥がいない

オペD「バルヴァイド、全モニタリング数値、ゼロ。消失です！」
オペB「不死鳥の反応なし！」
ジュリー「バルヴァイドと不死鳥が…消えました」
オペC「東京湾に時空振動」
オペD「バルヴァイドの反応あり。北緯三六・六、東経一三九・八」
ニシジマ「なぜそこなんだ!」

○シーン76 有明が戦場になる
マナカたちのすぐそばの上空に姿を現すバルヴァイドとガナミアの球体

先・マナカ「なに? そんな…空が割れています。あり得ないことです。青空に亀裂が入り、えほ エデンです。エデンがわたしたちの真上に、有明にエデンが現れました!

三角錐も銀色の球体も一緒です!」
ミナミ「どうして? キタヤマさん、下を見てください! あれ、ビッグサイトですよ
ね!」

キタヤマ「間違いない。でも、なんでここに!」
ガナミア「はっはっはっは! さあ、攻撃してみろ」
ミナミ「ここじゃ戦えない」
キタヤマ「ハカセ!」
ニシジマ「わかつちやいるが」
コヅカ「戦場そのものを人質にするとは卑劣《ひれつ》なことを」
ガナミア「ボグライ。コントロールボックスではもう攻撃が来らん。今すぐ海底から船を移動させてこちらに來い!」

ボグライ「それではダマスが」
ガナミア「そんなものは、この陸地をすべて焼き払ってから考えろ」
ミナミ「え? どういうこと? いま、聴こえましたよね。キタヤマさん」
キタヤマ「なんかい事聴いた気がする」

2405 ニシジマ 「まさか。ブルハトウの？」
2406 ガナミア 「なんだ？ ギガンドールからか？ 言葉が通じるだど？」
2407 コヅカ 「なんだこの声は？」
2408 オペB 「バルヴァイドからの回線に乗ってきています」
2409 ロイス 「デモンコアの作用だな」
2410 ニシジマ 「だよね。ブルハトウが日本語を話せたらマンガだもの。ミナミくん！ 強気で
2411 いけ！ 奴らにはこちらに攻撃する手段がない。その時間稼ぎのために空間転移を使
2412 ったんだ」
2413 ミナミ 「でも、オカリナさんの中に人が…」
2414 キタヤマ 「人じゃない！ 異次元人だ！」
2415 ミナミ 「人を弓で射《い》るなんて、やつちやダメです！」
2416 コヅカ 「人類を救えるチャンスだぞ！」
2417 ガナミア 「貴様たちと同じ下等な生き物と一緒にするな」
2418 キタヤマ 「お前の苦しみはオレと一緒に、一生背負ってやる。だから一発でいい！ また
2419 右手の弓で当てるんだ！」
2420 ミナミ 「キタヤマさん…さっきのはマグレなんです。狙ったのはもっと下で」
2421 キタヤマ 「ならオレがバランスをとる」
2422 ミナミ 「同じ矢色《やいろ》を出すなんてできません」
2423 キタヤマ 「わかるように言ってくれよ」
2424 ミナミ 「同じコースで矢が飛ぶようにわざと間違えて弓を引くなんて出来ないんです」
2425 ジュリー 「今の会話も聴かれたんですよね…」
2426 コヅカ 「非常に都合が悪い現象だ」
2427 ガナミア 「なんと。このような戦士にノエディがやられと。…総督には報告できんな」
2428
2429 ○シーン77 ロイス、立川から有明にテレポート 立川基地&有明
2430 オペC 「第七艦隊より伝令。マリアナ海溝から本州に接近してくる物体を感知。速度百
2431 ノット」
2432 キタヤマ 「ブルハトウの次の手というわけっすか」
2433 ミナミ 「お話ししてみます」
2434 キタヤマ 「誰と？」
2435 ミナミ 「ブルハトウさんと」
2436 キタヤマ 「なんだって？」
2437 ミナミ 「こんなに言葉が通じるのに、分かり合えないなんてことないと思います」
2438 ガナミア 「はっはっは。冗談はよせ。我々の作戦を止めようなどと無駄なことだ」
2439 ミナミ 「ただ壊して回るだけだなんて、そんなことに意味があるんですか？」
2440 ガナミア 「意味？ 意味だど？ 愚問。愚問だ。愚問すぎる。浄化こそ我らの正義。それ
2441 以外にどんな選択肢があるというのか」
2442 キタヤマ 「浄化ってなんだ！」
2443 ガナミア 「教えても理解できぬ偉業のことだ」
2444 コヅカ 「なんだ、浄化とは？」
2445 ロイス 「さあね。彼らにも大義がある、ということとはわかったな」
2446 ガナミア 「大陸がひとつ沈むくらいなんだというのだ。この星では四つ目だが、まだ浄化
2447 には程遠い」
2448 ニシジマ 「四つ目？ 太平洋のムー！ 大西洋のアトランティス！ インド洋のレムリア！
2449 全部本当にあったのか！ っていうか、やつらはいつから地球に干渉してるんだ？」
2450 ジュリー 「そんな謎は後にしてください」
2451 キタヤマ 「ミナミ、みんな死んじまったらオシマイなんだ。今は奴を撃て！」
2452 ミナミ 「でも…」
2453 ガナミア 「貴様たちは浄化には不必要。目障りな邪魔者は消えてもらうまで。それも、あ
2454 と数バリュウマーのイノチ。最後の祈りでも捧げるがいい」
2455 ジュリー 「ミナミさん。彼らの時間稼ぎに付きあってはいけません」
2456 ミナミ 「わたしはしない…わたしは出来ないんだ…わたしが引かなきゃだめなんだ。
2457 だって、あの子たちは楽しみにしてるんだよ。お祭りが来るのを。来週も、来年の分
2458 も。ここでわたしが負けたら、全部、吹き飛んでしまうんだ。だから、だから、負け
2459 るわけにはいかないんだ。負けない。負けない。負けない。絶対に、負け

2460 ない。わたしが決めるしかないんだ：わかりました。引きます！」
 2461 キタヤマ 「よし！ 腹決める！」
 2462 コヅカ 「デモンフォールドの再起動までの時間は！」
 2463 オペA 「四九〇秒です」
 2464 ニシジマ 「二番手はレポートできないようだが」
 2465 ミナミ 「不死鳥なしでやってみます」
 2466 キタヤマ 「その調子だ。行け！」
 2467 ニシジマ 「無茶すぎる」
 2468 ロイス 「心配は無用だ」
 2469 ジュリー 「なぜです」
 2470 ロイス 「今、わかる」
 2471
 2472 ロイスは不敵な笑いと共に、両手を勢いよく上げる
 2473 ロイスが立川基地・上の屋外から急に姿を消して、有明に現れる
 2474
 2475 オペB 「ロイスのビーコン信号が基地の上から消えました」
 2476 コヅカ 「なんだと？」
 2477 オペB 「ビーコン確認。ロイスの居場所は：有明です！」
 2478 ニシジマ 「いったいどうやって？」
 2479 ジュリー 「ロイス。あなたは何をしようというのですか？」
 2480 ロイス 「まあ、見ている」
 2481
 2482 ○シーン78 有明戦場
 2483 ミナミはビッグサイトの屋上にいるロイスを見つける
 2484 ロイスは、テレパシーでガナミアと会話しつつ左腕のコンソールで立川基地と話す
 2485
 2486 ミナミ 「キタヤマさん！ ビッグサイトの屋上に！」
 2487 キタヤマ 「ロイスか？ なんでここに？」
 2488 ガナミア 「なに？ あやつは、もしや、トイスヴェル」
 2489 ロイス 「フツ。ブルハトゥにまで名前を憶えてもらっているとは嬉しいねえ」
 2490 ガナミア 「この世界にまで：。なるほど、このギガンドルは貴様の策略か」
 2491 ニシジマ 「とんだ有名人ってわけか」
 2492 ロイス 「ノエディーのチカラにはとても感謝しているよ。ミナミ、聞こえるか」
 2493 ミナミ 「はい」
 2494 ロイス 「最後の大きな力をキミに授ける。それでブルハトゥを殲滅しろ」
 2495 ガナミア 「殲滅だと？ ふざけるな」
 2496 ロイス 「ニシジマ、不死鳥で球体を挟みこめ」
 2497 ニシジマ 「キミの命令を訊くのはいささか忍びないが、ここは仕方ない」
 2498 先・マナカ 「動きをとめていた不死鳥が、銀色の球体をはさみこみに行きました」
 2499 コヅカ 「だがデモンフォールドはまだ使えんぞ」
 2500 ロイス 「あまりベラベラと話しかけるな。やつらに聞かれる」
 2501 ニシジマ 「ならイヤホンを使えよ」
 2502 ロイス 「そうだな」
 2503 ガナミア 「このコックピットを破壊できるチカラなど、あるわけがない」
 2504 ロイス 「お前たちの思考は単純で助かるよ」
 2505
 2506 ○シーン79 ブルハトゥ戦闘艇、浮上
 2507 オペC 「房総半島沖、南五八キロに潮流の変化あり」
 2508 オペB 「マリアナ海溝からの物体と思われます」
 2509 コヅカ 「監視衛星の映像を拡大しろ」
 2510 オペA 「海面に浮上します。物体の全長、四百五十メートル」
 2511 ニシジマ 「この大きさで水中をあの速さで移動してきたっていうのか」
 2512 オペC 「物体の飛行速度、マッハ六」
 2513 先・マナカ 「あれはなんでしょう？ 太陽光を反射しているのか、表面を輝かせた円盤
 2514 がこちらに向かってきています。ものすごい速さです。もうわたしたちの目の前です。

2515 大きい。巨大です。大観覧車の高さが一一五メートルですから、その三から四倍程で
 2516 しょうか。どの位の高さに浮いているのか不明ですから更に大きいかもしれません」
 2517 ボグライ「お待たせしました。ガナミア様」
 2518 ガナミア「遅いぞボグライ」
 2519 ボグライ「すみません。多少、ダマスの調整を」
 2520 ガナミア「用意周到なのがお前の長所だ。しかし、時と場合による」
 2521 キタヤマ「ちよっとデカイぞ、二番手は」
 2522 ミナミ「二つの的は同時に狙えません」
 2523 ロイス「キミたちも少しは頭を使え」
 2524
 2525 ○シーン80 立川基地
 2526 オペD「デモンフォールド再起動まであと三百秒」
 2527 オペC「円盤の接近と同時に、バルヴァイド周辺のルーフケイズ結界の密度が毎秒二五
 2528 ルーストで低下しています」
 2529 ニシジマ「あいつも巨人同様にRF技術を使ってるんだ。驚くことじゃない。いや、なる
 2530 ほど。そういうことか」
 2531 コヅカ「名案か？」
 2532 ニシジマ「いいですか。ルソン島のとき、巨人は核ミサイルでもビクとしなかった。球
 2533 体は絶対零度の影響を受けない。あの巨大な円盤を水中で高速で動かせる。全部、バ
 2534 リアの効力です。たぶん、異次元から侵入して来れるのもその技術のおかげ。しかも、
 2535 わたしたちと同じRF技術を使っている。その結果作り出されるのが、やつらの言っ
 2536 ている『ダマス』だ。なら、エネルギーの供給を断てばいい」
 2537 ジュリー「空間からルーフケイズ結界をゼロにするには、余程の逆反射エネルギーがな
 2538 いと不可能です」
 2539 ニシジマ「だから、円盤が来るまで待ったんだろ。ロイス」
 2540 ロイス「役者は揃った。はじめるでしょう」
 2541 ニシジマ「円盤の存在も隠していたのは、あとで弁解してもらうけどね」
 2542
 2543 ロイス、両腕をあげ大声で呪文を唱えはじめる。呪文一発抜きで行きましょう！
 2544
 2545 ロイス「いにしえの故郷《こきよう》に帰りし御霊《みたま》よ。わが心の中に宿り護
 2546 《まも》れよ」
 2547 キタヤマ「おまじないをはじめたのか？」
 2548 ロイス「血塗られたサダメでも安らぎを求めていると知れ。おお、満天の星々よ。嗚呼、
 2549 深い海の底へ。彼の地に降り立つその姿。響きわるように力を尽くせ」
 2550 オペC「有明上空に磁気嵐発生」
 2551
 2552 立川基地のモニター消える。首都圏の電子機器が一斉ダウン。ブルハトウの通信も途絶
 2553
 2554 コヅカ「何が起きた！」
 2555 オペB「通信回線、すべて遮断されました」
 2556 ジュリー「ロイスがやっていることなのですか？」
 2557 ニシジマ「あいつの隠し事は底なしだね」
 2558 ロイス「たとえ首を刎《は》ねられようとも。遥かなる永遠の夢の世界。気高き勇者の
 2559 刻印を」
 2560 先・マナカ「急に空が黒く厚い雲に覆われました。同時にエデンが全身から光を放ってい
 2561 ます！ 一体、何が起ころうとーって、ちよっと。なんでモニター映らないの？ も
 2562 しかして、こっちの音も行っていないの？ この重大な状況の中継できないなんて」
 2563 ミナミ「キタヤマさん。わたし、こわい」
 2564 キタヤマ「心配するなって言ってるだろ」
 2565 ロイス「雷鳴が襲いかかるうとも受け止め、弾き返し、反対にその威光を得よ。さあ、
 2566 アドレマイズよ。今、我に授《さず》けたまえ。そなたの元に帰りし御霊のチカラを」
 2567 ガナミア「ギガンドールが輝きだした。ボグライ。状況を説明しろ。ボグライ！」
 2568 ボグライ「ガナミア様。ガナミア様！ なんだ、この波動は。もしか、ギガンドー
 2569 ルが動きを見せぬ間に」

2570 キタヤマ「円盤から触手が出てきた！ 球体を回収するつもりか。ミナミ！」
2571 ミナミ「的が一つになるなら、そっちの方が」
2572 キタヤマ「いいね。やる気満々だな。でも、立川と通信できない。どうする」
2573 ロイス「ミナミ、キタヤマ、聴こえるな」
2574 キタヤマ「ロイス！ あんたとは話できるんだな」
2575 ロイス「自分が不都合になるようなことはしない」
2576 ミナミ「わたしにあの円盤を撃ち落とすことなんてできるんでしょうか」
2577 ロイス「そのためのバルヴアイドだ」
2578

2579 ○シーン 8 1 ブルハトウ攻撃艇
2580 自動ドアが開き指揮室に戻ってくるガナミア、それを追ってくるボグライ
2581

2582 ボグライ「お待ちください、ガナミア様」
2583 ガナミア「我慢の限界だ。後続部隊など待つてはおれん」
2584 ボグライ「ですが、浄化の手順を誤りますれば」
2585 ガナミア「アドレマイズの手で汚れた世界など、次元ごと根こそぎ消え失へうせればいいのだ」
2586
2587 ボグライ「しかし…」
2588 ボグライ「やかましい。次元破砕砲《じげんはさいほう》の準備をしろ」
2589 ボグライ「かしこまりました」
2590

2591 ○シーン 8 2 バルヴアイド、巨大化
2592 バルヴアイドが巨大化していく
2593 マナカは中継できていないかもしれないマイクに向かって上空の模様を実況する
2594

2595 ミナミ「うわあ…だんだん大きくなってく！」
2596 キタヤマ「デモンコアのチカラにしたって、なんでもありませんだな」
2597 ロイス「ここまで来るのに苦労したよ。―バルヴアイドの大きさを十倍に拡大した。ルー
2598 フケイズエンジンの出力は五十倍以上。デモンアローの矢に不死鳥を乗せて撃て。そ
2599 れでブルハトウの円盤を撃墜できる」

2600 先・マナカ「みなさん、聞こえていますでしょうか！ エデンが巨大化しました。円盤に
2601 対抗するためと思われます！」
2602 ガナミア「ギガンドールが巨大化しただと？ しかし、所詮は木偶《でく》人形にすぎん。
2603 まず手始めに、こいつをお見舞いしてやる！」
2604 マナカ「エデンが三角錐を光の弓の先に取り付けました。これで円盤を撃ち落とそうとい
2605 うのでしょうか」

2606 キタヤマ「円盤のハッチが開いた！ 仕掛けてくるつもりだぞ。ミナミ、急げ！」
2607 ミナミ「足踏《あしぶ》み……胴造《どうづく》り……弓構《ゆがま》え……」
2608 ボグライ「準備完了しました」
2609 ガナミア「よし。この世の終わりの始まりを見るがよい。人間ども！」
2610

2611 円盤のハッチにエネルギーが走り、粒子が充填されていく
2612 弓を構えるバルヴアイド
2613

2614 キタヤマ「撃て！ ミナミ！」
2615 ミナミ「打越し《うちおこ》……引分《ひきわ》け……会《かい》……」
2616 キタヤマ「早く！」
2617 ミナミ「離《はな》れ！」
2618

2619 光の矢が放たれる
2620

2621 ○シーン 8 3 円盤消失
2622 ガナミア「いざかしい！」
2623 キタヤマ「今度は真っ直ぐだ！」
2624 先・マナカ「エデンが円盤に向かって光の矢を放ちました！ 円盤からは強力な光線が発
2625 射され、両者の間でぶつかり合い、激しく輝いています！」

2626 ミナミ 「残心《ざんしん》」
2627 ロイス 「ここからが見せ場だ」
2628 先・マナカ 「エデンから放たれた光の矢が円盤からの光線を押しています！ 明らかに光
2629 の矢の方が強力です！」
2630 ボグライ 「ガナミア様！ これは…」
2631 ガナミア 「まさか、この次元で、あの武器を使えるというのか…」
2632 キタヤマ 「よし！ もう一声《ひとこえ》！」
2633 ミナミ 「ごめんなさい！」
2634 ロイス 「最高のタイミングだ」
2635

2636 光の矢が円盤に到達する
2637

2638 ガナミア 「そんな…バカな…」
2639 ロイス 「ブルハトウの次元破砕砲《じげんはさいほう》の威力を利用して、不死鳥によ
2640 るデモンフォールド発生時の衝撃波を増幅。同時に周囲のルーフケイズ結界を一瞬で
2641 完全に消去する。それが本当のデモンアロー」
2642

2643 爆発する円盤
2644

2645 キタヤマ 「ブルハトウの円盤が、消えた…」
2646 ミナミ 「レポートですか？」
2647 ロイス 「いや、違う。原子レベルで塵になったのさ」
2648 キタヤマ 「勝ったんだよ。オレたちは勝ったんだ」
2649 ロイス 「おめでとう。しかし、そう喜んでもいられないぞ」
2650 ミナミ 「え！ …キタヤマさん、足が…」
2651

2652 ○シーン84 エデン、下半身消失
2653 バルヴァイドの下半身、腕が消えていく
2654

2655 先・マナカ 「円盤が消滅しました。あつという間に！ ですが、様子が変です。エデンの
2656 大きさが元に戻りながら、両足の先から消えていきます」
2657 キタヤマ 「足だけじゃない、弓が無くなった」
2658 ミナミ 「リアクターシールドも」
2659 キタヤマ 「なんてこった」

2660 ロイス 「デモンコアが無事ならそれでいい」
2661 キタヤマ 「なんだって？」

2662 ロイス 「案ずるな。上半身は残る」
2663 ミナミ 「じゃあキタヤマさんは？」

2664 ロイス 「消える」
2665 キタヤマ 「マジかよ」

2666 ロイス 「ブルハトウと同じように。仕方ない。それがデモンアローを撃った代償だ」
2667 ミナミ 「そんな…」

2668 ロイス 「地球の危機を救ったんだ。それくらいの犠牲は安いもんだろう」
2669 ミナミ 「キタヤマさん逃げて！ 操縦席から脱出してください！」

2670 キタヤマ 「わかってるよ！ でも、イジェクション・シェルが作動しない」
2671 ロイス 「残念だが、タイムアウトだ」

2672 キタヤマ 「うわ！ また消えるのか…」
2673

2674 消えるバルヴァイド下半身、残ったのは上半身のみ
2675

2676 ミナミ 「キタヤマさー！ーん！」
2677

2678 先・マナカ 「エデンが上半身だけになってしまいました。ゆっくりと降下してきます。こ
2679 のままだと防災公園に着地します。わたしたちも移動します」
2680

2681 中継車、発進する

2682 ○シーン85 立川基地、ロイスが本性あらわす
2683 通信機器が回復し、壁のモニタースクリーンが一斉に状況を表示しはじめる
2684

2685 オペB 「通信回復」

2686 オペA 「有明の映像ですす！」

2687 コヅカ 「ブルハトウの円盤はどうした！」

2688 オペC 「反応ありません」

2689 オペD 「バルヴアイドの信号確認。：ダイバーBのバイタルサインがありません」

2690 ジュリー 「バルヴアイドが、上半身しかありません」

2691 ニシジマ 「なんてことだ。捨て身で戦っていたミナミくんたちを支援できなかったとは」

2692 ジュリー 「ミナミさん！ 聞こえますか？」

2693 ミナミ 「キタヤマさんが…」

2694 ニシジマ 「あれでは無事ではすまない」

2695 ミナミ 「キタヤマさんが消えました！」

2696 ロイス 「フフ、フフフ、ハハ、ハハハハハハハハ。お役目ご苦労だったな、ミナミ。

2697 もう君の仕事も終わりだ」

2698 ミナミ 「キタヤマさんが死んだんですよ！」

2699 ロイス 「些細なことだ。やつとわたしの出番だ」

2700 ニシジマ 「ロイス！ 何をしようっていうんだ？」

2701 ロイス 「強大なチカラを得たデモンコアを使って、アドレマイズを支配するのだ」

2702 ジュリー 「どういうことですか！」

2703 ミナミ 「しはい、つて…」

2704 ロイス 「言葉のまんまさ。デモンコアのチカラをここまで増大させるのには、長い年月

2705 がかったよ。ミナミくんには、そのピリオドを打ってもらった。感謝しているよ」

2706 ニシジマ 「そのためにエデンを利用したのか…」

2707 ロイス 「そうさ。デモンコアのチカラを最大限に活かすには、複数の世界を往来して鍛

2708 える必要があった。なにせズーラの怨念《おんねん》というものは幼稚《ようち》で

2709 我侭《わがまま》だ。ゆえに強大な敵を倒しながら成長させなければならなかったの

2710 だ。ニシジマの大好きなロールプレイングゲームと同じ原理さ」

2711 コヅカ 「では最初から我々を騙っていたのか」

2712 ロイス 「騙す？ わたしが？ 嘘はついてきた覚えはないが」

2713 ジュリー 「そんなことって…」

2714 ロイス 「なら、教えてやろう。冥途の土産というやつだ。なぜデモンコアがミナミを選

2715 んだのかを。それは、ミナミが非力でちっぽけな存在だからさ」

2716 ジュリー 「勇者としてではないのですか？」

2717 ロイス 「わたしが一度でもミナミを称《たた》えたか？ 将来に希望もなく、才能もな

2718 い。逃げる事ばかり考えている。そんな人間に価値を見出してあげたのさ。このわた

2719 し」

2720 コヅカ 「デモンコアの意思というのは大嘘か！」

2721 ロイス 「わたしは感じているのだ。君たちにはわかるまい」

2722 ニシジマ 「見えないのをいいことに」

2723 ロイス 「人聞きが悪いな。キミたちには協力してもらったのだよ。非力なミナミが絶望

2724 から立ち上がろうとする願いを。誓いを。勇気を持ったそのココロを有効に使うため

2725 に」

2726 ジュリー 『「デモンコアとは、生命を映し出す鏡。そこに良き心を向い合せれば、世界の

2727 混沌から解脱できる』：そのチカラを利用して、己《おのれ》のエゴを成就させよう

2728 とするなんて、そんな行為が許さるはずがありません」

2729 ロイス 「許し？ 誰にだ？ 君たちの言う神とやらか？ いろんな世界を行き来してき

2730 たが、残念ながら会ったことがない」

2731 ニシジマ 「いい加減、ボクも肝《きも》に据《す》えかねてきたよ」

2732 ロイス 「いやあ、今回の旅は退屈せずに済んだ。博士、君のおかげだ。礼を言うよ。

2733 実に楽しかった」

2734
2735 ○シーン86 ミナミ、怒る
2736

2737 ミナミ 「許さない…」
2738 オペD 「バルヴァイド周辺のルーフケイズ結界濃度が急上昇しています」
2739 ジュリー 「ミナミさん！」
2740 ミナミ 「絶対に、許さない！」
2741 ロイス 「しかし、もう動けまい。努力賞のメダルでも作って置けばよかったかな」
2742 ミナミ 「わたしはなんて言われてもいい。でも、こんなに頑張ってるみんなを、ズツと
2743 騙してきたなんて、わたしは許さない」
2744 オペD 「バルヴァイド、エンジン出力上昇：そんな：オーバーフロー。計測不能です！」
2745 ロイス 「いいぞ。現状のデモンコアにミナミの怒りが加われば、さらに威力は増大し、
2746 わたしの望みが適いやすくなる」
2747 ニシジマ 「くそおろ、天才ニシジマにも打開策が見いだせない！」
2748 ミナミ 「だったら…だったら…」
2749
2750 ミナミ、バルヴァイドの胸部装甲を引きはがす
2751
2752 ミナミ 「ええーいッ！」
2753 オペD 「バルヴァイドの胸部装甲が剥がされました」
2754
2755
2756 バルヴァイドの胸部装甲が開き、デモンコアが直接現れる
2757
2758 オペA 「デモンコア、露出」
2759 オペC 「ルーフケイズ結界濃度、不安定になっています」
2760 コヅカ 「何をしようというのだ」
2761 ロイス 「馬鹿者！ 何をする！ デモンコアを破壊したら誘爆してお前も死んでしまうぞ！」
2762
2763 先・マナカ 「中継つながった？ みなさんご覧になれますでしょうか。エデンは円盤との
2764 戦闘後、損傷し、上半身のみとなり、いま、自分の胸の装甲を自ら引きはがしました。
2765 ハッチの中からは閃光が漏れています。あれがデモンコアの光なのでしょうか！」
2766 ニシジマ 「ミナミくん、聞こえるか！ 今、デモンコアを制御しているのは君なんだ。そ
2767 の君がいなくなったら、その破壊力は…、破壊力は…、うーん計算できん！ とまか
くタダじゃすまない！」
2768
2769 ミナミ 「デモンコアがある以上、わたしはもうどこにも逃げられない。なら…」
2770 ジュリー 「ミナミさんまで命を落とす必要はないのよ」
2771 ミナミ 「ジュリエットさん、ニシジマさん、コヅカさん、基地の皆さん。短い間でした
2772 けど、お世話になりました」
2773 コヅカ 「ミナミくん…」
2774 ミナミ 「パパ、ママ、お姉ちゃん。今まで本当にありがとう。そしてキタヤマさん。迷
2775 惑ばっかりかけて本当にゴメンなさい」
2776 ロイス 「やめろ！ せっかく積み上げてきたわたしの苦労を」
2777
2778 ○シーン87 キタヤマ再登場
2779 キタヤマからの着信、マナーモードのミナミが気が付く
2780 キタヤマは南鳥島近海で浮いている
2781
2782 ミナミ 「え？ そんな…、もしもし！」
2783 キタヤマ 「すぐ出たってことは、まだ頑張ってるってことか」
2784 ミナミ 「キタヤマさん！」
2785 ニシジマ 「まさか！ キタヤマくん、生きていたのか？」
2786 キタヤマ 「何回も殺さんでくださいよ」
2787 ミナミ 「どこにいるんですか！」
2788 キタヤマ 「GPSって役立つよなあ。緯度と経度を教えてくれて。でも周りになんにも
2789 なくて場所なんてわかりやしない」
2790 オペB 「ダイバーBの位置特定。端末からの映像キャッチしました。現在地は南鳥島の
2791 西三〇キロの海上です」
2792 コヅカ 「三日前と逆だというのは。硫黄島のメンテナンス・タンカー出動！」
キタヤマ 「ロイス。あんた言ったよな。おれたたちのこと、とんだ救世主だってさ。まあ、

2793 ちよつと天然だが、ミナミは本当の救世主だって知らなかったのかい？」

2794 ロイス 「それはどうか」

2795 キタヤマ 「ミナミ、よく聞け。お前のそのひたむきで優しいところに、オレは惚れた。高
2796 校を卒業したら結婚してくれ」

2797 ミナミ 「え？」

2798 ニシジマ 「ここでプロポーズするか、普通！」

2799 キタヤマ 「本部長、すみません。オレ、本部長よりミナミの方が好きみたいです」

2800 ジュリー 「わかりました」

2801 コヅカ 「そんな場合ではないぞ」

2802 キタヤマ 「だから絶対に死ぬな。お前はオレの嫁だ！」

2803 ミナミ 「でも、わたしどうすれば」

2804 ロイス 「簡単な話だ。わたしにデモンコアを渡せばいい。もちろん、安定した状態で」

2805 ミナミ 「それは出来ません！ こんな危険なデモンコアなんて無い方がいいんです」

2806 ロイス 「危険？ 夢を叶える魔法のクリスタルが危険だと？ もっとも、これから不安
2807 定な状態で維持することを考えれば、キミたちにとっては危険かもしれない」

2808 ミナミ 「キタヤマさん、ごめんなさい。キタヤマさんの気持ちは嬉しいけれど、やっぱ
2809 り、わたし」

2810 オペD 「バルヴァイドの機体がデモンコアの発生させる熱量に耐え切れません」

2811 ニシジマ 「やばい！ このまま加熱が進むと： ミナミくん、すぐに機体から降りるんだ」

2812 ロイス 「計算が狂ったか。もう少し装甲の耐熱設計を上げるように言っておくんだった
2813 な。だが、それも良し。バルヴァイドがデモンコアの熱を吸収してくれる。わたしは
2814 それを頂くまで」

2815 ミナミ 「そんなこと、させない」

2816
2817 ○シーン88 バルヴァイド、大気圏外へ

2818 中継するマナカ

2819

2820 先・マナカ 「エデンの胸部に搭載されたデモンコアの輝きが増しています。赤外線カメラ
2821 によると最も熱量の高い部分の温度は千二百度。あ、エデンの翼が開きました。上
2822 半身だけで飛ぼうというのでしょうか」

2823 ロイス 「悪あがきはよせ。もう遅い。キミが生きようが死のうが勝手だが、デモンコア
2824 はすでに完成されたのだ」

2825 ミナミ 「わたし、あきらめたくない」

2826

2827 飛び立つバルヴァイド

2828

2829 コヅカ 「どこに行くつもりだ！」

2830 ミナミ 「大気圏外に持っていきます」

2831 ニシジマ 「無理だ。翼のパーツも崩落《ほうらく》が始まっている。間に合わない」

2832 ミナミ 「でも行きます！」

2833 ジュリー 「しかし、帰ってこれません」

2834 ミナミ 「みなさん、ほんとにありがとうございました！」

2835

2836 バルヴァイドは翼の疑似デモンコアをボロボロと崩れ落ちさせながらも飛ぶ

2837

2838 先・マナカ 「エデンが急上昇をはじめました。何をしようというのでしょうか。あまりの
2839 高温のためパイロットの安否が心配です」

2840 キタヤマ 「馬鹿野郎！ ミナミ！ そんなにオレが嫌いなら、上から降ってきて受けて止
2841 めてやらねーからな！」

2842 ニシジマ 「コックピット・シェルがもてばいいが」

2843 キタヤマ 「縁起でもないこと言わないでくださいよお」

2844 ジュリー 「ミナミさんの救助体制を敷きましょう。横須賀に連絡します」

2845

2846 ニシジマはコーヒーを入れたマグカップとスナック菓子の袋を持っている
2847 ニシジマ、コーヒーをぐくりと飲みスナックを食べる
2848

2849 ジュリー「こういうときくらい食べるのをやめられないんですか？」

2850
2851 ジュリエットはニシジマからスナックを取り上げる

2852
2853 ニシジマ「ちょっとお。やめてくださいよ」

2854
2855 ニシジマの麦茶がジュリエットのスーツに跳びはねる

2856
2857 ニシジマ「あーあ、せっかくのスーツが。ボクから麦茶とお菓子をとったら、今後の救出
2858 に支障が出ますよ」

2859 コヅカ「この一大事に何をやってる。本部長、上着は脱いだ方が良い」

2860
2861 ジュリエット、上着を脱ぎながら

2862
2863 ジュリー「あなたはミナミさんの気持ちを少しでも考えているんですか？」

2864 ニシジマ「もちろん。本部長がスーツのシミを気にするくらいにはね…って、ちょっと待
2865 った。本部長、そのスーツ！」

2866 ジュリー「安物です。気にしないでください」

2867
2868 ニシジマ、ジュリエットのスーツのタグを見て気が付く

2869 Louis Vuitton＝ロイス・ヴァイットンであることに

2870
2871 オペD「バルヴァイドの第一宇宙速度到達まで、あと三十秒」

2872 ニシジマ「なんってこった…ボクとしたことが」↑ミナミの状況とロイスの両方に対して

2873
2874 ○シーン89 大気圏外

2875 ミナミ、震動が激しくなるバルヴァイドの操縦席で耐える。息苦しくなっている

2876
2877 ミナミ「うッ…なんとか地球の外まで頑張っつて、ね…バルヴァイド…さん…」

2878 コヅカ「バルヴァイドの高度は？」

2879 オペA「十万五千メートル」

2880 ニシジマ「ミナミくん、早く脱出するんだ」

2881 ミナミ「でも…」

2882
2883 ○シーン90 立川基地・指令室

2884 壁のスクリーンにジャクサからの情報が表示され、ミナミの落下コースを予測した曲線
2885 が複数描写されている

2886
2887 オペD「通信途絶。ブラックアウトです」

2888 オペA「ジャクサより入電。バルヴァイドとイジェクション・シエルの分離を確認。バ
2889 ルヴァイドは第二宇宙速度に到達し地球の重力圏を離脱後に爆発。微弱なルーフケイ
2890 ズ反応あり。デモンコアの欠片と思われます。欠片は太陽の周回軌道に入る予定です。
2891 イジェクション・シエルの大気圏再突入速度は秒速六・九キロ。落下予想地点は…ち
2892 ようど小笠原ホールを中心にした半径千キロ圏内の太平洋上です」
2893 ニシジマ「あとはミナミくんの強運に賭けるしかない」

2894
2895 ○シーン91 ロイス、逮捕

2896 ビッグサイト屋上でバルヴァイドを見上げるロイス

2897 その後ろから近づく警官隊。それに感づいているロイス

2898
2899 ロイス「これはマズイ。大気圏外ではさすがにわたしも足を運べない、が…」

2900 警官「振り向くな。監視庁だ。両手を上に。お前は複数の狙撃班のターゲットになっ
2901 ている」

2902 ロイス「手回しが良いな」

2903 警官「こちら有明。ホシを確保した。繰り返し、ホシを確保した」
2904

2905 ○シーン92 ロイス、護送車

2906 護送車に乗せられ、ソファに座るロイス。手錠と足かせの拘束具を付けられている
2907 モニター越しではあるが怒りを通り越してあきれた風なジュリエット
2908 哀れみのかけらもないニシジマ

2909
2910 ジュリー「気分はいかが？ ペテン師さん」

2911 ロイス「この手錠と足かせを外してくれば愛想笑いもできるだろうな」

2912 ニシジマ「お前の笑顔をみても全然元気でないよ」

2913 ロイス「こんな貧相なつくりの車でわたしを運んでもいいのかな」

2914 ニシジマ「なら見せてみるよ。瞬間移動をさ」

2915 ロイス「勘づいたか」

2916 ニシジマ「簡単なトリックさ。指令室を出てすぐに第四格納庫に向かったお前は、事前に
2917 細工してあったステルスヘリで基地を飛び立った。ビーコンだけは基地の上に置いて
2918 ね。有明に着いたあと頃合いを見計らってビーコンの発信源を切り替える。そのくら
2919 いボクにだって出来る」

2920 ロイス「なぜわかった」

2921 ニシジマ「本部長のスーツのタグをみてハツとしたよ。ロイス・ヴァイツトン。インチキ
2922 野郎にしては、なかなかユーモアのセンスがあるってね」

2923 ロイス「わたしの助言で地球が守られたというのにこのザマか」

2924 ジュリー「その辺は、これからジックリ伺います」

2925
2926 ○シーン93 ミナミたち救出・エンディング
2927 お台場で中継を続行中のマナカ

2928
2929 先・マナカ「エデンが大気圏外で爆発したとの情報が入ってきました。パイロットは無事
2930 なのかでしょうか」

2931
2932 マナカの携帯に非通知の着信、マナーモードで

2933
2934 先・マナカ「非通知？」

2935 ホンマ「おい、本番中だぞ！」

2936 先・マナカ「でも… はい。マナカです！」

2937 ミナミ「マナカさん…」

2938 先・マナカ「(小声になる) ミナミさん？ ということは…」

2939 ミナミ「もう大丈夫です。わたしたち、勝ちました」

2940 先・マナカ「そう。そうなんだ。ありがとう。ほんとにありがとう。…みなさん、重大ニ
2941 ユースです！ わたしたちの危機は回避されました！ わたたちは、勇敢な人々の
2942 行動によって、護られたのです！」

2943
2944 漂流するキタヤマとミナミはバルヴァイドの下半身のパーツの欠片につかまって浮かん
2945 でいる

2946 キタヤマ「どうだミナミ。惚れ直したろ？」

2947 ミナミ「綺麗な夕陽…」

2948
2949 近づいて来る救助ヘリ

2950
2951 救助隊「S-39 (シーエラー、ツリー・ナイナー)。E-1 (エコー・ワン)。タリ

2952 ホー・ツー (Tallyho) 目標一二を視認した)。バイタルサイン・コレイション (照合)

2953 。ダイバーAアンドB、リコグニション (認識)。コンディション・グリーン。パー

2954 ツが散乱しているが問題ない。これより状況開始する。くりかえす」

2955
2956 4 番主題歌EDフルサイズ・ドラマバージョンをフェードイン

2957
2958 ○シーン94 キャスト紹介

2959 以降、ナレーションで。収録時はシーン92も一緒に収録
2960

出演

ミナミ、はなさき・みなみ（花咲実奈美）

キタヤマ、てんのうじ・さきょう（天王寺★左京）

ニシジマ、ちやお・ささき（チャオ・ササキ）

ジュリエット、あきづき・みさき（秋月深咲）

コヅカ、まるふじ・けんた（丸藤賢太）

ソラ、ひの・れい（緋乃玲）

マナカ、しやおりん（小鈴）

ロイス、なぎ・かいじ（風佳二）

ガナミア、すぎみや・かな（杉宮加奈）

ボグライ、ひの・れい（緋乃玲）

ワセダ、おおぬま・しゅん（大沼竣）

オウジ、あゆかわ・もえ（歩川もえ）

アオサワ、しらい・ひでゆき（白井秀行）

ノリマサ、たかまひろゆき（高天宏之）

イサクラ、さくらい・きょうこ（櫻井興子）

JR大宮駅員、ねこ（音虎）

青年、おんげき・ぼいすあーむず（音劇ボイスアームズ）

ナレーション、おおぬま・しゅん（大沼竣）

○シーン95 エデン家・アパート前

アパート前に停まる黒塗りのベント

そこから降りるミナミがドアを開めると、開く窓

ミナミは車に向かって話しかける

ミナミ 「お世話になりました」

ジュリー 「お礼を言いわなければいけないのはこちらの方です」

コヅカ 「申し訳ないが、君の活躍は誰にも知られるわけにはいかないのだ。身边警護の

者が張り付いていては気が休まらんだろうが、そこは我慢してくれ。ミナミくんの安

全を守るのが我々の責務だ。説明の通り、墮落しない程度には毎月口座に一定額が振

り込まれ続けるだろう。そのための国防機密費だ」

ニシジマ 「無駄遣いしちゃダメだぞお」

ミナミ 「しませんよ」

ジュリー 「キタヤマくんに、なにか伝言はある？」

ミナミ 「そうですね。美味しいパンを食べたいときは電話してくださいって」

ジュリー 「わかりました」

コヅカ 「よし。出せ」

走り出すベント。ミナミは深々と頭を下げて見送る

ミナミ 「ありがとうございました」

ミナミ、エデン家のドアベルを鳴らす

中からソラが走ってくる音が聴こえる

ドア、勢いよく開く

ソラ 「ミナミ！」

ミナミ 「ただいま。お姉ちゃん」

ソラ 「あんた大丈夫なの？ ウイルスとか？」

ミナミ 「うん。もう平気みたい。とりあえず夕飯つくるね」

猫がなく

ミナミ 「よしよし。コウちゃんもお腹空いたでしょ」

閉まるドア

3017 ○シーン96 スタッフロール
3018 企画・原案、あーる・えむ・あーる（RMR）
3019 脚本、すがや・ようせい（菅谷陽星）
3020 音楽、もりた・しゅんすけ（森田俊輔）
3021 せんていぶ（SENTIVE）
3022 こうのす・まい（鴻巣舞）
3023 SF考証、おこなう・もとこ（奥菜宇素子）
3024 UMA（ゆーま）監修、くらもち・きよりゆー（倉持キョーリユー）
3025 地域情報監修、てぶす（TEPS）
3026 リハーサル、品川区大崎第二地域センター（そのまま）
3027 録音、スタジオ「りゅうのどうくつ」（竜の洞窟）
3028 録音エンジニア、***（***）
3029 キャスティング協力、てぶす（TEPS）
3030 ぼいす・とれじゃー・ふあくとりー（Voice Treasure Factory）
3031 おんげき・ぼいすあーむず（音劇ボイスアームズ）
3032 デザインワークス、こうべぎゅう（神戸牛）
3033 キャラクターデザイン、まーと（mart）
3034 タイトルロゴ、あんよくん（あんよくん）
3035 イラスト、こうべぎゅう（神戸牛）
3036 作監修正、まりあんぬ（マリアンヌ）
3037 編集・監督、ふるいけ・まさとう（古池真透）
3038 制作、ぎやらくしー・えーじえんと・さーびす（GAS）
3039
3040
3041
3042
3043 ○END
以上で、ちようきへい・がるばいど えでん・だいばー、を、終わります」

決定稿